

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	清水中学校
報告者	松村 剛志

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

実施期日 令和5年度11月20日（月）

想定時間 13:00～14:10

参加者 3学年・教職員・262名

2. 訓練の目的、内容

○目的

- | | |
|----|---|
| 生徒 | <ol style="list-style-type: none">1. 生命を尊重する態度を育てる。2. 災害時（地震及び火災）に自他の生命を守るための行動の仕方（避難経路の確認、迅速かつ的確な避難行動）を身に付ける。3. 災害の状況と自分の置かれている立場を冷静に判断し、自分取るべき行動の仕方を考える。4. 自分が学校以外の場所で災害にあった時にも適切な行動がとれるように、災害時の基本的な行動の仕方を身に付ける（シェイクアウトの行動）。 |
| 職員 | <ol style="list-style-type: none">1. 災害時であっても、学校での最低限の安全が保たれるように、学校安全保持の意識を高める。2. 災害時（地震及び火災）に人的・物的被害を最小限に食い止めるための行動を身に付ける。3. 校内の非常用設備が災害時（地震及び火災）に正常に作動するように点検する。 |

○内容 昼休み中に地震が発生し、火災が発生したという想定で行った。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

生徒 自分たちで考えてその場でシェイクアウトができていた。
事前にアナウンスしていない中で、迅速に動いていた。

職員 非常ベルや受信機の取り扱いを全体で共有することができた。

全体 危機管理マニュアルの見直しを専門家の視点も交えながら行うことができた。
休み時間の訓練でより本番に近い形で実施できてよかった。
生徒の意識も高められたと思う。
煙体験は、数十cm先も見えず、とても良い体験になった。

2. 課題

職員

- × 初期消火に誰も行かなかった。
- × 職員室からでは、避難状況が分からないため、事務職の携帯にも連絡が欲しい。
(その後、学校教育課に連絡する際に状況を伝えやすいため。)
- × 人員確認が職員室黒板と違った学年があったため、主任が黒板チェックをしっかりとするとよいと思った。
- × 人数報告の言い方が学年によって違うので、実施要項に従い、全員の言い方を揃えると、混乱を防ぎ、迅速な確認ができると思う。
- × 相談室登校生徒の学級の人数報告がうまくいかなかった。
? 廊下に並んで避難したが、待っていた方が良かったのか。
? 避難の際、並ぶ必要があったのか。

生徒

- × シェイクアウトをどこでしたら良いのか戸惑っていた。
- × 話し声が聞こえてきて残念だった。
- × 消防署職員講話の際、シェイクアウトをしたかどうかの問いかけに対して手を挙げていない生徒がいたので、事前指導でもっと押さえるべきだと思った。

その他 (全体を通して)

- × 煙体験後、時間が余ったクラスがあった。災害に関するビデオ(5～10分)があると良いと思った。

学校防災アドバイザーよりいただいたご指導

- ・ 子供達は形だけのシェイクアウト訓練をしていたので、頭を教科書や健康観察板などの固いもので守ることを指導するとよい。
- ・ 事前指導で、「物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」を伝えるとよい。
- ・ 階段は小さな体や弱い立場の人のことも考慮して、外回りで降りるとよい。
- ・ 避難中や避難場所では、中学生は小学生やお年寄りなどの弱い立場を守る立場にあることを指導するよい。
- ・ 訓練は、授業中よりも個々の判断が求められる休み時間に実施するとよい。
- ・ 誰でも、非常ベルや受信機を取り扱えるように、役割は設けず、各々に判断させる方が有意義な訓練になる。
- ・ 危機管理マニュアルは、詳しい表に加えて、簡単な表を作成し先に添えておくと、共有しやすい。
- ・ AED は誰でも見やすい位置に設置することを心がけ、所在を示す簡単な案内を校舎に貼るとよい。
- ・ 日本海側の津波も想定した避難訓練も考慮するとよい。



写真1 煙体験の様子



写真2 消防署職員による講評の様子

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	福井市社中学校
報告者	林 丈太郎

I 避難訓練の実施状況

1 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

日 時	令和5年12月4日（月）	14:35～15:45
想定時間	大雨により日野川の堤防が決壊	14:35
	垂直避難行動開始	14:40
	教室にて福井豪雨の映像資料を視聴	15:05
	学校防災アドバイザーによる助言	15:15
	振り返り用紙記入	15:35
参加者	全校生徒434名、教職員34名、合計452名	
指導・助言者	防災アドバイザー 下畑 健二（福井県防災士会 顧問） 菅生 敬一（防災士）	

2 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

(1) 目的

洪水等の浸水時における避難の方法を知る。また、避難行動の要領を体験し、安全避難する基本的な習慣を身につけさせる。

教職員においては、浸水時の避難の方法と、生徒の点呼及び安全確保の方法を確認する。

(2) 内容

添付資料参照 令和5年度浸水避難訓練実施計画

II 訓練の成果と課題

1 成果

前回の訓練では、1階および2階にいる1・2年生が3階へ避難したが、もともと3階にいる3年生は各教室で待機をしているだけで、危機感を感じにくいという反省があった。そこで今回、3年生は1階の体育館で学年集会をしているという想定で訓練を行い、3階の各自の教室まで避難するようにした。

実施計画を事前に防災アドバイザーにお見せした際に、浸水時には、濡れては困る大切なものの運搬も大切だと助言いただいたので、緊急放送後に、教頭が持ち出し物品について職員室にいる教員に運搬の指示を出す訓練を行った。

また、当日の打ち合わせにて、浸水の場合は地震や火事とは違い、浸水するまでに多少の時間があるので、自教室から3階へ移動する前に、一次点呼を行うのが良いと助言いただいたため、緊急放送に「先生方は、避難前に全員いるか確認してから避難誘導してください。」という内容を付け加えた。緊急放送については、声のトーンが落ち着いていて、しゃべるスピードもゆっくりだったので聞き取りやすく、生徒の気持ちも落ち着きやすい話し方だったと評価していただいた。

訓練時の様子としては、生徒は静かに落ち着いて真剣に訓練に取り組むことがで

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

きた。訓練後には、防災アドバイザーの方からご提供いただいた、福井豪雨の様子を記録した映像を視聴した。多くの生徒が見たことのない、実際に福井で起こった洪水災害の様子を見て、水害の恐ろしさ、垂直避難の大切さを実感していた。また、視聴後には、校内放送にて防災アドバイザーの下畑様から助言をいただいた。その中で、垂直避難の意味、ハザードマップについてなど、生徒が家庭でも洪水の際の避難について考えるきっかけとなる内容を話していただき、生徒の感想にはハザードマップで避難方法を確認しておきたいという内容もあった。

避難訓練の振り返り	
2年組番	
当てはまるものに○をつけましょう。	
A よくできた B まあまあできた C あまりできていなかった D 全然できていなかった	
① 緊急事態を意識して、真剣な態度で参加することができたか。	(A) B C D
② シャベらず、走らず、安全に避難することができたか。	(A) B C D
③ 集合した後、整然と整列し、シャベらずに待機することができたか。	(A) B C D
④ 訓練後のお話(防災士の方の高評)を真剣に聴くことができたか。	(A) B C D
⑤ 普段から、放送が入ったときにはシャベらず聞くようにしていますか。	(A) B C D

(振り返り、感想)

今日、初めて洪水のときの避難訓練をして「垂直避難」という避難方法を学ぶことができました。洪水時の避難場所も協定から指示され、前日ではいざというときに自分の身を守るためにも普段から注意深く放送でも大切な情報を聞き逃さないようにしたいと思います。

生徒が書いた振り返り用紙



職員室にて非常持ち出しの指示の様子



3階視聴覚室に避難している2年生



3階でそれぞれの避難場所に向かう生徒



3階の特別教室に避難した1年生

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。



体育館から3階へ向かう3年生



体育館から自教室に避難した3年生



談話ホールで人員点呼の集約をしている様子

2 課題

避難訓練終了後に、防災アドバイザーのお二人から助言をいただいた。まず、避難時の生徒の様子について、静かに避難できていたが、階段を昇る際に走る様子が少し見られた。前を進む生徒と間隔が開いたため急ぎ足になったと考えられるが、それを防ぐためには、先導する教員がゆっくり歩くことが大切だとのことだった。先導している教員自身では気づけないことなので、次の職員会議の際に、全教員で共有したいと考えている。また、他にも、浸水時の非常持ち出しについて危機管理マニュアルに記載すること、遅刻や早退などの生徒の在校状況の変化に対応して人員点呼を行うこと、水害に関する情報をどこからどのように入手するのか確認しておくことなど、多くの助言をいただいたので、これを今後の危機管理に生かしていきたい。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

令和5年度 浸水避難訓練実施計画

福井市社中学校

- 1 目的 洪水等の浸水時における避難の方法を知る。また、避難行動の要領を体験し、安全避難する基本的な習慣を身につけさせる。
教職員においては、浸水時の避難の方法と、生徒の点呼及び安全確保の方法を確認する。
- 2 実施期日 令和5年12月4日（月）6校時（14:35～15:45） ※清掃カット
- 3 想定 6校時開始3分後の14:38頃、大雨で日野川が決壊し、浸水し始めたとの防災無線が入った想定で、緊急放送をかけて避難の指示を出す。
※今回は、3年生は体育館で学年集会をしているという想定で行う。
- 4 訓練内容
- ・緊急時の生徒、教職員への避難指示訓練
 - ・緊急時における生徒、教職員の安全確保及び人員点呼訓練

時刻	指導内容及び実施概要	生徒の活動
朝の会	○担任から告知と事前指導 〈指導内容〉 ・浸水時を想定した上層階に避難する訓練を行うこと ・真剣にやること ・詳しくは昼の放送をよく聞くこと	
昼の放送	○安全担当から校内放送による事前指導 〈指導内容〉 ・浸水時の避難における基本的行動について ・避難場所について	校内放送を聞き、避難訓練のポイントを理解する。
14:35	6時間目開始のチャイム	
14:38	○緊急放送（避難の指示） 「訓練、訓練。たった今、大雨により日野川が決壊したという情報が入りました。3m～5mの浸水の恐れがあるので、この放送が終わったら、全員、校舎の3階に避難してください。避難場所は、3年生は各自の教室、2年生は視聴覚室、1年1組は第一理科室、1年2組は第二理科室、1年3組は第一音楽室、1年4組は学習室Ⅱです。『おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない』を守って、慌てず静かに避難しましょう。 1階にいる人は多目的ホール横の階段・生徒玄関前階段どちらか近い方を、2階にいる人は配膳室前階段を使いましょう。 繰り返します。」（繰り返す） ※緊急放送終了後、教頭は、職員室にいる先生方に非常持ち出しの指示を行う（今回は指示だけで、実際には運ばない。） その後、職員室にいる先生方は3階談話ホールに避難する。 （訓練の際は、事務職は職員室に残る。） その際、教務主任は、出席簿・拡声器を持って行く。	緊急放送を聞く。特に避難場所を確実に聞き取る。 中会議室の生徒は、北階段から学習室Ⅲに避難誘導する。
	○避難および点呼 各担任は人員点呼を行い、学年主任に報告する。 学年主任は、揃い次第教頭に報告する。 〈人員点呼の手順〉 担任→学年主任→教頭→校長 ※生徒の人員点呼と併せて、教員の人員点呼も行う。 ※特別支援学級の生徒について 特別支援学級の生徒は、基本的に交流学級で点呼を受ける。	静かに避難し、整列・点呼を行う。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	福井市安居中学校
報告者	高田 安希子

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

実施期日 令和5年10月24日（火）

想定時間 13:20～14:10

参加者 1年27名、2年20名、3年28名、教職員13名

2. 訓練の目的、内容

目的 ○大雨による河川の決壊もしくは土砂崩れの発生が予想される場合に、静かに放送を聞いて落ち着いて避難することができる。

○訓練や講話を通して、自然災害の観点から見た安居地区の特性や地域の避難所について知ることができる。

簡易版実施計画

13:20	訓練開始。 緊急放送（訓練放送、土砂災害想定）
13:22	避難行動開始 ①体育館へ避難開始 ②生徒点呼（授業者→教頭→校長） ③教職員点呼（教務→校長） ④残存生徒確認
13:28	⑤避難完了
13:29	校長先生より御高評
13:35	安全担当と防災アドバイザーのそれぞれから講話。 ・安居地域の特性と豪雨による自然災害の被害予想 ・在宅時の身の守り方 ・地域の避難所について
14:00	教室へ移動、避難訓練の振り返り
14:10	活動終了

II 訓練の成果と課題

1. 成果

防災アドバイザーが防災について講話をした。安居地区の地形やそれゆえに発生しやすい自然災害、災害時にどう情報を収集するか、被災すると使用できなくなるサービスなど、安居地区で暮らす上で、必要不可欠な防災に関する情報を知ることができた。

2. 課題

本訓練は、安居中学校が移転分離開校して初めて行われた。小学校では、隔年で土砂災害を想定したものをやっているという。そのため、まずは中学校でも隔年で、大雨を想定した避難訓練を隔年で継続的に行う必要がある。そして、保小中合同での訓練につなげていくとよいと考える、

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	大野市開成中学校
報告者	西行 大志

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

【実施期日】11月29日(水)

【想定時間】13:25

【参加者】学校全体（生徒252人+教員約40人）

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

訓練実施計画を参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・ 休み時間に地震が起こった場合の初期避難について、実際の行動を生徒が体験することができた。
- ・ 通れない箇所を設定したことで、通常とは異なる避難経路を通らないといけないため、生徒が考えながら避難する練習ができた。
- ・ 教員も休み時間における地震での避難行動について学び、イメージをもつことができた。
- ・ 事前に防災アドバイザーの方と打ち合わせしたことで、休み時間における生徒の初期避難の注意点や教員の行動について確認をすることができ、ある程度自信をもった状態で、避難訓練を迎えることができた。
- ・ 生徒の振り返りの記述から、学校内だけでなく、地域で避難するときも低学年を優先する気持ちをもって行動することが大切であることを、生徒はよく理解していた。

2. 課題

- ・ 当日に雨が降ったため、外への避難ができず、体育館への避難になり、避難行動が限定された。実際に外に避難する訓練で、生徒がどのような避難行動をするか来年度も休み時間における避難訓練を行う必要がある。
- ・ 学年担当の教員がそれぞれの階に移動し、生徒の避難指示、避難呼びかけを行った。ある学年の主任は、初期避難の指示を行っていたため、体育館での担当学年の指導を行うことができなかったという指摘があった。実際に地震が起こった際、見落としなく生徒を確実に避難させる工夫を見つける必要がある。
- ・ 生徒の避難行動を見ていると、1階から出火しているにも関わらず、階段や廊下が詰まっており、1階の生徒がスムーズに避難できていない場面が見られた。教員や生徒が、低学年の生徒を優先するという気持ちを定着させる必要があると感じた。

令和5年 積雪時地震火災避難訓練計画

大野市開成中学校

1. 目的 冬季（積雪時）に発生した火災に対して、安全に避難行動ができるようにする。
休み時間に災害が発生した際の生徒と教職員の動きを確認する。

- ※重点目標 ①積雪時の避難場所について知る。
②緊急放送を静かに、最後まで聞く。
③避難行動を整然と行う。
④給食室からの出火に対して、避難経路を知る。

- ※評価の観点 ①積雪時の避難経路・場所が理解できたか。
②緊急放送の指示がしっかり聞けたか。
③整然と避難できたか。

2. 日時 令和5年11月29日（水）13:25～14:25

（雨天時は体育館に集合・整列）

3. 参加対象者 全校生徒、教職員

4. 日程

時刻	全体の動きと放送内容	担当
13:25 (予鈴なし)	緊急放送（2回繰り返す） → 生徒は緊急放送で素早く机の下にもぐる。教室にいない場合は、頭上を確認し、落下物がない場所へ移動、可能な限り身の回りの物で頭部を守る。 「地震が発生しました。次の放送があるまで机の下へもぐりなさい。」 ※押しボタンを使用し、実際になるベルを鳴らす 「ただ今給食室付近で火災報知機が作動しました。現在、出火場所を確認していますので、その場で待っていなさい。」（2回繰り返す） ○出火確認（消火器とインターホンを持っていく） ○初期消火（消火器で初期消火を行う） ○給食室付近にいる生徒に対する指示 ○天井まで火が達したため消火を断念し、職員室へ連絡する。	村口 手空き職員
13:30	○消防署へ通報（実際に119番に通報練習をする。※10分前に事前連絡） 「訓練、訓練、大野市新庄 開成中学校給食室より出火しました。消防車お願いします。（給食室の近くにはLPガスと灯油もあります。）」 ○緊急サイレン及び緊急放送（2回繰り返す） 「給食室より火災が発生しました。給食室前の廊下を避けながら、近くの避難口を通り各自、生徒玄関前・駐車場に避難しなさい。ただし体育館の避難口は積雪のため使用できません。閉じ込められている人などは音を立てて知らせなさい。」 ○2回目の「避難しなさい」を聞いて、避難開始 校舎内にいる職員は、近くの生徒を誘導。（トイレ・特別教室等は近くの教員が大声を出して確認する。火元近くに戻ることはしない。） ○各場所での生徒検索（各階南側→各学年主任、各階北側→手すり教員）	教頭→出火確認者 全職員 学年主任
13:40	○駐車場（体育館）に避難完了 担任が点呼（ゆっくり丁寧に名簿にチェックを入れながら） → 教頭 ○生徒点呼終了後、教職員の人員点呼を行う。（点呼後、生徒後ろに整列） ・各学年所属職員：学年主任→教頭（校長） ・その他の職員：教頭（校長）	担任
13:43	○市教委に連絡を入れる。（直通64-4827）	教頭

	「訓練です。火災がありました、全員避難しました。」	
13:45	○体育館へ移動開始	【司会】担当
13:55	○避難訓練について ・ 学校長講話 ・ 学校防災アドバイザーの話	
14:20	3年→2年→1年の順で教室に戻る。 ○振り返り用紙の記入・事後指導	

5. 係分担 ※教育計画P78参照

(1) 全体指導：状況把握と指示、放送（校長・教頭）

(2) 避難・安全確認（全職員）

全職員は生徒の避難、施設の安全確認（火気、ガス栓）を行った後、避難場所に急行する。

※学年主任は各階南側に生徒が残されていないか確認をする。

※手すきの教員で各階北側特別教室に生徒が残されていないか確認をする。

※トイレでは「いないか！」と声出し確認をする。

※状況によって、教頭から放送による指示もある。

※行方不明の生徒が発生した場合、避難経路の途中で声かけする。（連携）避難場所に移動してからは、校長、教頭の指示に従う。

※授業時間以外の時間で地震が起こった場合は、基本的に担当学年の階の生徒を避難誘導する。右回り、左回りに分かれて誘導していく。

(3) 緊急持ち出し出席簿：校長 緊急持ち出し出席簿・全クラス名簿を搬出し、点呼時に生徒を確認する。

(4) 安全旗持ち出し：校長

(5) 生徒要覧持ち出し：教頭

(6) 拡声器持ち出し：教頭

(7) AED 持ち出し確認呼びかけ：教頭

※最初に体育館横を通りかかった人が持っていく。（教頭はあくまでも確認）

(8) 救護指導、救急セット（毛布・医療道具・タンカ等）持ち出し：阪井

(9) 集合指導：最初に急行した職員（生徒指導主事・各学年主任等）が指示する。

(10) 職員は点呼後、生徒の後ろに整列する。

(11) 市教委へ災害や避難の状況を連絡：教頭（教務）

(12) 校舎内への移動指導：各学年

雑巾の用意（指示）：■■■■■■■■■■ 後片付け：環境委員会

6. 指導について（学級担任）

- (1) 事前学級指導：実施の週の朝の会・帰りの会等を利用する。ハンカチを常備するように、日頃から指導する。
告知：実施の週の月曜日に、「実施日のどこかの時間に行く」ことを伝える。

学級での指導内容

① 今回の訓練の意義

- 積雪時の避難の仕方について知る。
※今回は給食室からの出火、積雪のため、避難出口が生徒玄関（非常口②番）、職員玄関（非常口③番）の保健室前（非常口④番）の3か所に限られることを生徒に理解させる。
- 積雪時の避難場所が『生徒玄関前東側駐車場』であることを知る。
- 火の出やすい場所を確認する：給食室（厨房）、理科室、調理室、金工室 等

② 初期避難について（要確認）

- 1：地震を感じたらその場にしゃがむ
 - 2：頭上を確認し、落下物（照明や電灯など）が落ちてくる可能性が低い場所へ移動
 - 3：窓ガラスなどからできるだけ距離をとる（廊下なら中央）
 - 4：ファイルや教科書などでできる限り頭や首を守る（何も持っていない場合は腕で頭を守る）
- ※その際、頭や首に直接守る道具をつけないようにする（クッションをつくるため）

③ 静かに放送を聞く態度

- 放送が始まったらすぐに口を閉じる。緊急放送は2回放送される。
- 火災報知機の誤作動の可能性があっても、静かに放送の指示を待つ。
- 放送の指示に従って整然と真剣に避難する。

④ 火災の避難の仕方（おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）

- 避難は2回目の「避難せよ」を聞き、適切な避難経路より避難する。
追い越し禁止、火災のときは口をふさぐ。
- 出火場所の廊下（給食室前廊下）を通らずに避難する。
- 工事中のエリア（南校舎東側）は通らずに避難する。
- 原則、真ん中を通行する。同時に通行できない時は、上の階の生徒を優先する。
- 迅速な避難が困難な生徒については、担任・学年主任が事前に把握しておく。
また、避難に際しては、担当教諭、隣接する教室の教諭が補助を行う。

④ 避難場所での確認

- 整列（しゃがむ・口を閉じる）
- 点呼・報告は、【生徒点呼】担任 → 教頭
【職員点呼】学年所属職員 → 学年主任 → 教頭

(2) 事後指導

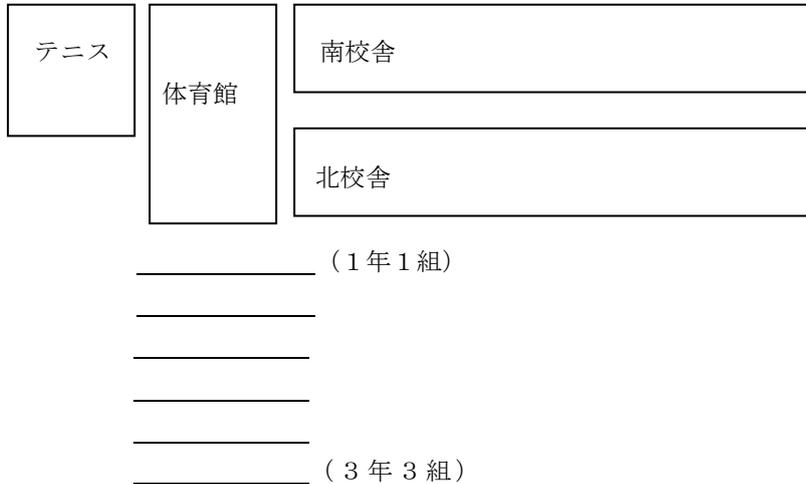
避難訓練、評価の観点について自己評価させる。

7. 避難場所と職員の配置（雨天時は体育館のテニスコート側の壁のほうを向いて）

避難場所：校長、教頭、阪井

各階西側学習室からの生徒の追い出し：各学年主任

生徒玄関に近い職員：生徒玄関、職員玄関で生徒の誘導



※東側を正面に各学年男女1列で集合

8. 消火器の設置場所

職員室（印刷室）、消火栓の中（各階本館2箇所、南館2箇所 計12箇所）、給食室前、保健室、理科準備室A・B、調理室

9. 自衛消防組織



学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	陽明中学校
報告者	笠松宗展

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

令和5年11月16日 13:30～15:00(1時間30分)

講師：防災アドバイザー松井峰晴氏

羽生教頭、笠松（安全担当）参加

2. 実施の目的、内容

◇アドバイザー派遣の目的

- ・本校の今年度の危機管理マニュアルの中心的な内容について学校防災アドバイザーから助言を受け、より実効性のあるものへ改定する。
- ・アドバイザーから「防災」や「危機管理に関する」重要な知識を得ることで、防災に強い学校づくりを目指す。

◇内容

以下の項目を事前にアドバイザーに送り、助言を依頼した。

- ・「防災」や「危機管理に関すること」に係る「防災の基本的なこと」や「有事での対応や情報系統」について（※今年度の陽明中学校危機管理マニュアル「防災の基本的なこと」を基にして）
- ・安全確保のため、様々な場面で判断するときの具体的なポイント
- ・安全確認の報告をするときに、必要な項目・内容、留意事項などについて
- ・集合時に目印となる「本部旗」のような物品、非常時に備えた物品等について

II 訓練の成果と課題

1. 成果

「備える防災…備災」をテーマに、東日本大震災や過去に起こったいくつもの災害から得られた教訓の蓄積を例に挙げて、助言いただいた。

災害で被害を拡大させる「3つの過信」

- ・「自分は被害にあわない」
- ・「自宅近くの河川防波堤は壊れるわけではない」
- ・「国・県・市が何とかしてくれる」

を脱却し、

- ・「昔（福井豪雨）を知る」
- ・「今（南越前町バックウォーター）を知る」
- ・「他（釜石の奇跡）を知る」

の「3つを知る」という行動に変えることが大切である。

防災の基本的なこととして、

- ① 避難計画
- ② 緊急連絡手段
- ③ 緊急用具と備蓄物
- ④ 避難訓練
- ⑤ 危機管理チームの構築

などを計画、実施し、さらに危機管理マニュアルのPDCAサイクルを回して、常に改善していくことが大切である。

また、平素の万全な準備が危機を救うと心得て、いかに素早く、的確に「情報をえるか」が肝であり、「i-ama メール」、「県の河川・砂防総合情報」、「Line スマート通知」等のアプリ、そして、普段から近隣の学校や公民館などへ情報網を張り巡らせることを進める。

備蓄物として、水、適正な食料品、毛布、発電機等を紹介いただいた。

2. 課題

たくさんの助言をいただき、本校に不足している、改善しなくてはならないものがたくさんあると実感した。有事での生徒の保護者への引き渡しの判断基準、不審者侵入の役割や教員が連携して対応する方法や、学校が避難場所に指定されたときへの準備や対応等々疎かにしておけない。全てを実行に移すのは困難であるが、本校の実状を鑑みて、必要性の高いと思われるものから見直していくようにしたい。

防災は、重要であると理解していても、どうしても人任せになりがちである。その意識を変え、生徒も教員も「防災を自分事」としてとらえられるよう情報提供、本校の実状に応じた訓練への参加等を地道に重ねていかねばならないと改めて感じた。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	小浜市立小浜第二中学校
報告者	竹原 永治

I 避難訓練の実施状況

1 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

日時 ○令和5年8月3日（木）13:30～15:30

- ・機管理マニュアルの指導助言
- ・避難訓練実施に向けての事前打ち合わせと指導助言

○令和5年10月24日（火）第5校時終了後の休み時間～第6校時

14:20 緊急放送（集中豪雨により南川堤防決壊）

14:21 1次避難開始 → 2次避難

14:45 校長，学校防災アドバイザーより講評

学校防災アドバイザーより講話

15:20 教室で振り返りシートを記入

2 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

- (ア) 目的 添付文書参照 避難訓練（水害対策）実施計画……………別紙1
水害対策避難訓練の事前指導について……………別紙3
- (イ) 内容 添付文書参照 避難訓練（水害対策）実施計画……………別紙1
避難訓練の流れ……………別紙2
水害対策避難訓練の事前指導について……………別紙3

II 訓練の成果と課題

1 成果

(ア) 事前学習による地域・市役所との連携

- ・避難訓練に向けた事前学習（1）として，10月1日（日）に実施される地域の防災フェスタ（今富町づくり協議会主催）への積極的参加を重点的に呼びかけ，多くの生徒に参加してもらうこととした。（防災フェスタの内容は，講演会（台風13号水害を含む），体験コーナー（防災関係，ダイヤル，簡易トイレ，新聞紙スリッパなど），落語（防災関係の話），自衛隊の炊き出し等）防災フェスタへの参加を通して，生徒は楽しみながら気軽に防災と関わり，地域との交流を深めたり地域の方から学んだりすることができた。
- ・避難訓練に向けた事前学習（2）として，小浜市役所生活安全課による出前講座を10月11日（水）5限目（学活，全校対象，アリーナにて）に実施し，水害が発生したときの対処方法，日頃の備え，過去の大規模水害等について学習した。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付

(様式2)

その際には70年前に小浜市に未曾有の被害をもたらした台風13号による水害の被災者の方をゲストティーチャーとしてお招きし、実体験を直接聞くことを通して、防災の意識や二中への愛校心、ふるさと小浜への郷土愛を高めることができた。

(イ) 道徳科での事前学習

- ・1年生の道徳科で「一日前に戻れるとしたら」の教材を活用して、防災について学習を深めた。

学習後には振り返りや感想などを廊下に掲示し、防災に対する生徒の意識向上につなげることができた。

(ウ) 生徒への事前告知なし、休み時間での避難訓練の実施

- ・「生徒自身の判断力・行動力を高める」

ことを訓練の目的の1つに設定した。そこで今回の訓練は、生徒への事前告知なし、かつ休み時間に訓練を行った。しかし避難時の混乱も予想されたため、事前に「垂直避難」の考えや避難の仕方などを指導した。訓練本番では、休み時間の訓練にも関わらず、生徒は混乱することもなく、しゃべらずに整然と避難することができた。

(エ) 学校防災アドバイザーからの高評と講演

- ・避難訓練後に3階からアリーナへ移動し、学校防災アドバイザーの角谷さんから高評をいただいた。そこでは落ち着いてしゃべらずに避難することができてすばらしかったと評価していただくことができた。

その後の講演では、東日本大震災時の津波による避難や今年の南越前町の豪雨災害等について、そして小浜市での水害発生時の被害予想等について詳しく解説をしていただいた。その中で教えていただいた「災害時には中学生は助けられる人ではなく助ける人にならなくてはならない」という言葉が大変印象的であった。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

(オ) タブレット端末を使用した振り返り

- ・講演の後には各教室で振り返りを行った。その際には感想を書くだけでなく、タブレット端末を使って自宅付近の予想浸水域や避難場所の確認等も行った。そのことにより、避難訓練と自分の生活がつながり、生徒は水害や避難訓練を自分事として捉える事ができたようであった。



(カ) 二中校区の小学校・県立学校・地域の防災士の方による避難訓練の見学

- ・今回の避難訓練の実施にあたり、二中校区の各小学校・県立学校の防災担当の先生方や地域の防災士の方々にも訓練の様子を見学していただいた。今回の二中での訓練を足がかりとして、さらにブラッシュアップしたものを各学校で取り組んでいただき、二中校区全体の防災力の向上をねらったのである。今後各学校の実情に合わせた避難訓練が実施され、地域全体の防災力が向上することを期待したい。

2 課題

- ・避難訓練の実施に向けて、学校防災アドバイザーや地域の防災士の方々と事前の打ち合わせ、本番の訓練、そして事後の振り返りを行った。

その中で実際に水害が発生し、二中が避難所になった場合のことが何度も話題に上がった。避難所としての機能や備蓄の状況、教職員の動きなどについて、普段から準備をしたり関係機関と連携をとっておいったりすることの重要性を痛感した。そのために、まずは学校の教職員の意識を向上させるために今後どのようなことが必要なのかを考え、実践していくことが大切であると感じた。また、地域とのさらなる連携も欠かせない。地域の力を借り、地域と関わりながら学校での防災力の向上に努めていくことが重要であると考えている。

避難訓練（水害）振り返り

()年()組()番 名前()

○避難訓練を終えて	できた	まあまあ	あまり	できなかった
1 緊急放送を静かにしっかりと聞けたか。	[4]	3	2	1
2 冷静に、落ち着いて移動・避難できたか。	[4]	3	2	1
3 混雑した場所でも冷静に指示を聞けたか。	[4]	3	2	1
4 生徒どうして次の行動（放送の指示の内容確認など）を確認するなど、自分で判断し行動できたか。	[4]	3	2	1

○小浜市洪水ハザードマップを見て、次のことを確認しよう。

※各自でタブレットPCを使って調べます。

1 自分が住んでいる地区について、調べよう。

・浸水域3～5m未満の区域である。 [はい いいえ]

・自宅が南川沿い付近である。 [はい いいえ]

・2階建て以上の避難所が自宅付近にはない。 [はい いいえ]

(!) 3つとも「はい」に当てはまった人は、自宅近くの避難場所や避難経路を確認しよう。

2 水害発生時の避難可能場所について

○二中校区から3階建て以上の建物を調べて、書き出してみましょう。

小浜市役所

○自宅から最寄りの避難場所は？

今富公民館

3 水害発生時における家族との約束を確認しよう。

□日中に水害が発生した場合の避難場所は？

□家族との連絡手段は？

今富公民館

電話、ショートメール

○避難訓練の振り返りと学校防災アドバイザーさんの講話の感想を書きましょう。

今回は火事や地震などの避難訓練ばかりではなく、水害のことについてはありきたりな
 ばかりだったので、しっかりと対策をしようと思いはいた。まず、ハザードマップを確認して必要
 な持ち物と用意することと避難経路をしっかりと決めておくことが大切だと思った。
 自分達ばかりが側ではなく、高齢者などの身が側にいると知って、災害が
 来たときどうやって準備しておきたいと思いはいた。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

第2回避難訓練（水害対策）実施計画

小浜市立小浜第二中学校

- 1 目的 ○南川堤防が決壊した場合に、迅速かつ的確な避難・対応ができるようにする。
○訓練を通して、生徒自身の判断力・行動力を養い、緊急時の対応についての理解を深める。

- 2 実施日時 令和5年10月24日（火）第5校時終了後の休み時間～第6校時

3 時程

14:20 訓練開始 緊急放送（訓練放送・南川堤防が決壊を想定）

14:21 避難行動開始

① 1次避難開始（3Fのどこかの教室・廊下へ各自で避難）

② 2次避難（1年：図書室・PC室・第1理科室・第2理科室）

（2年：1組2組はそのまま・学習室・生徒会室）

（3年：1組2組はそのまま・オアシス3・学習室）

③人員点呼

④残留生徒の確認（各館1F～2F）

⑤重要書類等の持ち出し（3Fへ）

⑥避難完了報告

・各担任→学年主任→教頭（本部：3F図書管理室）→校長（本部）

14:45 体育館へ移動（校長、学校防災アドバイザーより講評）

（学校防災アドバイザーより講話：20分程度）

※事前にPC、プロジェクター、スクリーン等を準備しておく

15:20 教室で振り返りシートを記入

15:30 活動終了（そうじなし）

4 事前学習

○事前学習として、次の2点を実施する。

- 1) 小浜市役所生活安全課による出前講座を10月11日（水）5限目（学活、全校対象、アリーナにて）に実施し、水害が発生したときの対処方法、日頃の備え、過去の大規模水害等について学習し、防災の意識やふるさと小浜への郷土愛を高める。（体育館はイスなし）
- 2) 10月1日（日）に実施される防災フェスタ（今富町づくり協議会主催）への積極的参加を重点的に呼びかけ、多くの生徒に参加してもらう。防災フェスタの内容は、講演会（台風13号水害を含む）、体験コーナー（防災関係、ダイヤル、簡易トイレ、新聞紙スリッパなど）、落語（防災関係の話）、自衛隊の炊き出し 等

5 事前指導

○避難訓練についての実施日・時刻の事前予告は行わない。（生徒には通常授業として連絡）

○ただし、混乱が予想されるため、10月23日（月）朝の会で、垂直避難の仕方や基本的な流れを指導しておく。（別紙参照）

6 事後指導

○体育館にて

・校長と防災アドバイザーによる講評 ・学校防災アドバイザーの方による講話

○自教室にて

・ハザードマップを参考に、自分たちの地域の様子を確認。自宅で水害に遭ったときの避難場所を考える。

7 教職員の動き

- 校長，教頭，教務主任，学年主任，養護教諭は携帯電話を保持して移動
- 訓練放送は教頭と■■■■事務職（計時）が担当
- 災害発生時，職員室にいた職員は出席簿，生徒指導カードなどの重要書類，拡声器，トランシーバー（事前に充電しておく必要あり）等を3Fへ持ち出し
- 1次避難の誘導は，全職員が近くの生徒に3Fに避難するように誘導・指示
- 養護教諭は当日の出欠ホワイトボードを記録し，避難完了報告に立ち会う。
- 学年主任は携帯電話でまたは直接本部（3F図書管理室）へ出向いて教頭に報告する。
- 平田事務職は教頭から避難完了の電話連絡を受けた後に，「体育館へ移動」の校内放送をかける。

8 教職員の役割分担

- ・緊急放送による避難指示・・・・・・・・・・教頭
- ・避難時間の計測・・・・・・・・・・■■■■事務職
- ・（体育館での）司会進行・・・・・・・・・・安全担当（竹原）
- ・2次避難誘導と整列指導・・・・・・・・・・各学年担当教諭
- ・避難完了報告・・・・・・・・・・学級担任→学年主任→教頭
- ・1次避難誘導・・・・・・・・・・別紙「避難訓練の流れ」参照
- ・残留生徒の確認・・・・・・・・・・別紙「避難訓練の流れ」参照
- ・救護係・・・・・・・・・・養護教諭
- ・体育館整列指導・・・・・・・・・・生徒指導主事（松宮）
- ・講評・・・・・・・・・・校長，学校防災アドバイザー
- ・講話・・・・・・・・・・学校防災アドバイザー角谷桂一氏

9 避難訓練直前（5限目）の授業者

○以下の教員が中心となり，生徒に3Fへ冷静に避難するように指示を出す。

1-1 ()	2-1 ()	3-1 ()	オアシス ()
2 ()	2 ()	2 ()	
3 ()	3 ()	3 ()	
4 ()	4 ()	4 ()	
5 ()			

10 その他

- ・教職員は「かかと」のある履き物を使用することが望ましい。
- ・訓練当日は，学校防災アドバイザーの方が複数名，二中校下の各小学校・県立学校の担当教諭が来校され，訓練の様子を見学される予定です。

（参考資料：「学校安全総合支援事業 第1回実践委員会」より）

①南川堤防決壊より10分後に浸水45cm，20分後には69cm（=1Fには戻れない）

②堤防決壊後の予想最大浸水域は，3～5 m。それが12～15時間程度継続する。

↓

2Fの床下まで水が来る

③子ども以外のものを，いつ，どのように避難させるか。

避難訓練（水害対策）の流れ

※50分授業の時間で作成（掃除なし）						
時刻	訓練内容	生徒の動き		教員の動き		
				授業をしていた教諭	職員室にいた教諭	
14:15		5限目授業終了、休み時間に入る。				
14:20 (5分終了後)	「訓練、訓練。ただいま南川の堤防が決壊した模様です。生徒は直ちに校舎の3Fに避難しなさい。1F2Fにとどまることがないようにしなさい。落ち着いて避難しなさい。（教頭）」	<p>○すべての活動を停止し、静かに緊急放送を聞く。</p> <p>○各自が一番近い3Fフロアへ移動開始（1次避難開始）</p> <p>※1次避難時の待機場所の大きな割り当て 中校舎3F 1-1,1-2→図書室・PC室前廊下 南館3F 1-3,1-4,1-5→第1理科室・第2理科室前廊下 2-3→学習室前廊下, 2-4→生徒会室前廊下 北館3F 3-3→オアシス3, 3-4→学習室前廊下</p>		<p>○教職員は、訓練放送が入った時に居合わせた場所で生徒へ1次避難の指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お：押さない ・は：走らない ・し：しゃべらない ・も：戻らない <p>※3Fは混雑が予想されます。待機場所、廊下の避難路の確保、生徒の誘導など臨機応変の対応をお願いします。</p>	<p>○校長の指示で、出席簿・拡声器・生徒指導カード・AED・トランシーバー・ラジオ・タブレットPC、救急セット等を本部（図書管理室）へ搬出</p> <p>※本部は中校舎3F図書管理室</p> <p>○校長から指示を受けた教員は、マスターキーを持って（図書室・図書管理室・PC室・第1第2理科室、各館3F学習室、生徒会室、第2音楽室）を解放</p> <p>○職員室にいた教員は、携帯電話を持参して3Fへ移動・避難し、図書管理室に本部を設置する。</p> <p>○事務職員は職員室で待機（訓練当日のみ）</p>	
14:21	○1次避難開始 ※しゃべらず、静かに落ち着いて避難できたか。	○しゃべらず、静かに避難、静かに待機		<p>○各館・各フロアにいる教員は廊下等その場で話し合っ て、1次避難先へ誘導する教員と各フロアの空き教室・トイレ等の残留生徒を確認する教員に分かれ、対応する。 ※1 南館1Fの教員は体育館・体育館トイレも確認する必要あり。</p> <p>※2 各館・各フロアで漏れがないように残留生徒の確認をお願いします。</p>		
14:25 14:30	○1次避難完了 ○教頭の合図で各学年主任から2次避難の指示 中校舎3F 1-1:図書室, 1-2:PC室 南館3F 1-3・1-5①~④:第1理科室 1-4・1-5⑤~⑧:第2理科室 2-1・2-2は自教室で待機 2-3:学習室, 2-4:生徒会室 北館3F 3-1・3-2は自教室で待機 3-3はオアシス3で待機 3-4:学習室 ※混雑した場所でも静かに落ち着いて指示を聞けたか。生徒どうして確認し合えたか。	○静かに指示を聞く。		<p>【1次避難完了後、各学級の担当を授業者→担任へバトンタッチ】</p> <p>○1次避難先で生徒対応</p>	<p>○図書管理室を本部として機能するように整備（校長・教頭・養護教諭）</p> <p>※校長・教頭は、図書管理室付近に常駐する。</p> <p>○養護教諭は、第2音楽室を保健室に設定し、必要に応じて生徒の対応を行う。</p>	
14:31 14:35 14:40	○2次避難開始 ○人員点呼（担任） ○人数報告（学年主任→教頭→校長）※生徒・職員の間 ○2次避難完了 ○放送「全校生徒の避難が完了しました。学年ごとに、静かに体育館へ移動しなさい。」（事務職）	<p>【1年】</p> <p>○2次避難先へ避難 1-1:図書室 1-2:PC室 1-3・1-5①~④:第1理科室 1-4・1-5⑤~⑧:第2理科室</p> <p>○クラスごとに整列 ○担任人数確認 ○学年主任は教頭へ報告</p>	<p>【2年】</p> <p>○2次避難先へ避難 2-1:自教室で待機 2-2:自教室で待機 2-3:南館学習室 2-4:生徒会室</p> <p>○クラスごとに整列 ○担任人数確認 ○学年主任は教頭へ報告</p>	<p>【3年】</p> <p>○2次避難先へ避難 3-1:自教室で待機 3-2:自教室で待機 3-3はオアシス3 3-4:北館学習室</p> <p>○クラスごとに整列 ○担任人数確認 ○学年主任は教頭へ報告</p>	<p>○各クラスの2次避難場所へ誘導・避難先で整列の指示</p> <p>○移動しないクラス（2-1, 2-2, 3-1, 3-2）は机を端に寄せ、収容スペースを確保しておく（一般の方が避難してくることを想定して）。</p>	<p>○避難完了報告（学年主任→教頭→校長） ・在籍数、欠席数、現在数、異常の有無等</p> <p>○養護教諭は保健室対応の状況を教頭に報告</p> <p>○2次避難完了後、教頭は平田事務職へ放送を依頼する。</p>
14:45	○校長からの講評 ○学校防災アドバイザーからの講評 ○学校防災アドバイザーからの講話（20分間）	○体育館に集合（全校集会の隊形で）				
15:20	○各教室で振り返り	<p>○ワークシートを使って、振り返りを行う。</p> <p>項目・緊急放送時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷静に静かに避難 ・混雑時の態度と生徒どうしの助け合い ・自分の地区の水害被害予想 <p>※タブレットPCで自分の任んでいる地区のハザードマップを検索・確認しながら行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難すべき場所 ・家族との申し合わせ等 <p style="text-align: right;">の確認</p>		<p>○担任は学級でワークシートを使って振り返りと事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の振り返り ・自分の地区の水害被害想定（タブレットPCで各地区のハザードマップを検索する） ・各小学校区での避難可能場所の確認 		
15:30	訓練終了					

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練と講義）

学校名	おい町立大飯中学校
報告者	治面地 亮汰

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

日 時	令和5年12月1日（金） 13:25～14:15
想定時間	13:25 緊急地震速報による訓練放送 13:30 グラウンド横駐車場に避難 13:35 校舎内外の安全確認したところ、 土砂災害の恐れありと判断 13:38 3階ホールへ垂直避難 13:45 学校防災アドバイザーによる講評
参加者	避難訓練・・・中学校の全校生徒189名と教員21名
指導・助言者	避難訓練・・・学校防災アドバイザー1名、防災士2名

2. 訓練の目的、内容

添付文書参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

（1）避難訓練と講評

学校防災アドバイザーの方と事前に打ち合わせをして、緊急地震速報が鳴った瞬間にシェイクアウトすること、避難後には教職員の人数確認もすることを確認した。

避難訓練は、まず緊急地震速報に合わせてシェイクアウトした。学級担任は指示した後、生徒ともにシェイクアウトした。ゆれがおさまった後、給食のワゴンが散乱しており、一部廊下は使えないという想定で、屋外へ一次避難した。屋外への避難後、教員が校舎内外の安全確認をしたところ、土砂災害の危険ありという想定で3階ホールへ垂直避難した。生徒も教員も気を緩めることなく行動し、スムーズに避難できた。本校校舎が土砂災害警戒区域（土石流）に立地しているため、このような想定で避難訓練を行った。

垂直避難後、し、学校防災アドバイザーの講評を聞いた。避難訓練の様子を見て、「非常に静かに避難していて驚いた」と話してくださった。その後、東日本大震災の時に起こった「釜石の奇跡」についても話をしてくださり、自分たちで考え避難する大切さも教えてくださった。また、土砂災害が起こる前兆として土のにおいがするとい話もしてくださった。生徒全員集中して話を聞いていた。



防災アドバイザーからの講評

(2) 事後指導の一つとして

○大森房吉の紹介

「なぜ緊急地震速報が可能なのか。」という問いから、1年時に学習した初期微動継続時間と震源からの距離の関係を想起させた。そして、その基礎となる考え方を示した大森房吉が福井出身者であることを紹介した。さらに、その考え方をういても地震は完全に予測可能なものではないが、様々な面で備えることができるものだという考えにつなげた。

○ハザードマップの確認

「ではどのような備えができるのか」ということから、おおい町内の避難所について確認し、福祉避難所においてある備蓄品などについても確認した。本校も避難所にはなっているが、ほとんどの生徒が避難所として開設したのを聞いたことがないのは、避難所に違いがあるからだという気付きを得られた生徒がいたのが印象的であった。

また、ハザードマップを用い、土砂災害に対して、本校がどのような状態であるかを確認し、全校が避難する場所としてなぜ大階段前がいいのかということについても考えた。生徒の中には、テニスコートはエリアに入っていないのでいいのではないかという意見を言う者もいたが、ネットに囲まれているので適さないのではという指摘をする者もおり、自分たちで考えさせることも大切なのだという実感を得ることができた。



ハザードマップ

2. 課題

今回の避難訓練を通して、学校防災アドバイザーと防災士の方から以下の課題やアドバイスをいただいた。

- ・シェイクアウトのうち、ホールドができていない生徒が多かった。
- ・机で頭を守る際には、頭を窓ガラスと反対方向にする。
- ・実際に訓練の中で保護者へ緊急メールを送る。
- ・非常持ち出し品を防水のリュックに入れて常にまとめておく。
- ・避難の際にケガをする場合もあるので、救急セットやAEDを持ち出す。
- ・毎年、少し変化を加えると良い。(例えば、ガラスの破片に見立てて、ペットボトルを切り刻んだものを廊下にばらまく。)

保護者・小学校・町教委との連携を密にしながら、安全・安心な学校作りに邁進しなければならぬと改めて痛感した。

地震緊急速報による避難訓練および情報伝達訓練について

- 1 目的 <生徒> ・緊急時に状況を判断し、適切に行動する力を養う。
 <教職員> ・緊急に避難を要する際の連絡、校内放送の方法、生徒の避難誘導の方法を実践することにより、緊急時の安全に備える。

2 日時 令和 5年12月 1日(金) 13:25~14:15 (6限)

残った時間は学活

- 3 想定 ・緊急地震速報を校内放送で流す。
 ・地震がおさまった後、避難経路確認。
 ・グラウンドへ避難。
 ・避難後、土砂災害を想定し、3階ホールへ避難。
 ・情報伝達訓練を兼ねる。

4 事前指導内容

- ①緊急地震速報について知る。 ※事前に、各学級で緊急地震速報の学習。
 ②地震が起きた時の対応(シェイクアウト【まず低く、頭を守り、動かない】)について知る。

シェイクアウトと言われたら、すぐに姿勢を低くし、頭を守り、動かないようにする。

◇一時避難の方法について

教室…机の下に入り、机の脚を対角線上につかむ。

廊下…近くの教室、または身を隠せるところに避難する。できない場合は、ものが落ちてこない、たおれてこない、移動してこない場所で頭を手でかばい、うずくまる。

体育館…中央に集まって、頭を手でかばい、うずくまる。

トイレ…ドアを開けて、姿勢を低くする。

屋外…校舎の近くや転倒の恐れのあるものから離れる。

※屋外にいる場合は、校舎の中には絶対に戻らない。グラウンドで姿勢を低くする。

- ③防災ヘルメットの着用について、再度確認する。
 ④火災発生時などの避難経路を確認し、安全にグラウンドに避難する。

※事前に避難訓練の日は伝えるが、時間は伝えない。

5 避難訓練実施手順

13:25	① 緊急地震速報が入る。鳴った瞬間にシェイクアウト。 ② 教員は防護姿勢をとるように指示。(教員も行う) 教室：机の下にもぐり、机の脚を対角線上につかむ。 体育館：中央に集まり、手で頭を保護しながらしゃがむ。 屋外：建物、斜面から離れ、しゃがむ。 「訓練、訓練。全校のみなさん、シェイクアウト。」 (放送は2回。2回目終了後に) ③ 緊急地震速報装置による警報音が入る。	① 教頭 ② 教頭 授業者
13:27	④放送 「揺れがおさまりました。ただいま校舎内の安全確認を行っています。生徒の皆さんは、次の指示があるまで、その場で待機しなさい。」 ・ヘルメットを着ける。 ・頭を低くして待機。	④教頭

(次のページへ続く)

<p>13:28</p>	<p>⑤校舎内安全確認（校長の指示）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各階及び体育館の安全確認 <ul style="list-style-type: none"> ・破損個所、落下物等の確認、火災の有無 ・生徒の安全確認（授業者） ・校舎内見回り（授業者外教員）→口頭、または内線電話で職員室へ状況の報告 ・見回りの教員は、職員室へ報告後避難誘導 【見回り】 ※3階は内線電話で報告 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒玄関前廊下、美術室横階段（■■■■） ・PC室横階段、図書室前廊下（■■■■） ・技術室横階段（■■■■） ・体育館（生徒玄関方面：■■■■、技術室横非常扉方面：■■■■） ・相談室（早） ・保健室（浦裕） ・大階段前（松宮）※集合隊形など指示 <p>※■■■■先生は、体育館玄関の鍵を開ける。</p> <p>⑥学校長は、全員の避難を決定。 緊急放送指示、避難誘導の指示。</p>	<p>⑤職員室教員</p> <p>⑤授業者</p> <p>⑤授業者以外</p> <p>※緊急避難放送は行う</p> <p>⑥校長</p>
<p>13:30</p>	<p>⑥放送による避難指示（校長の指示）</p> <p>「校舎内、避難経路及び避難場所の安全を確認したところ、購買前廊下及び技術室から体育館への渡り廊下が通れません。したがって、図書室前廊下からPC室横階段を通過して大階段前へ避難します。生徒の皆さんは、先生の指示に従い、周囲の状況に注意しながら、避難しなさい。」</p> <p>⑧大階段前へ避難 ※喋らずに移動。整列し、以下の通路へ誘導。 教員が2名以上いる場合は、教員2名で生徒を挟む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難経路：1、2、3年生ともPC室横階段を通過して駐車場へ。 <ul style="list-style-type: none"> 2年生は調理室前の階段から2階に下りて、図書室前廊下を通過してPC室横階段へ。 3年生は美術室横階段から2階に下りて、図書室前廊下を通過してPC室横階段へ。 <p><u>（购买前にワゴンが散乱して通れない想定）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●各階避難誘導、最終確認（生徒避難の最後尾にまわる） <ul style="list-style-type: none"> ・1階 PC室横階段（■■■■） ・2階 図書室前廊下（■■■■）、2階廊下（■■■■） ・3階（■■■■） ・相談室（■） ・保健室（■■■■） 	<p>⑦教頭</p> <p>⑧教員</p>
<p>13:35</p>	<p>⑨朝礼の隊形に整列。生徒の人数確認。（授業者→校長）</p> <p>※生徒にも聞こえるよう大きな声で報告する。</p> <p>教員の人数確認。（教務→校長）</p> <p>いない生徒、教員がいた場合、■■■■、■■■■で検索。</p> <p>⑩校舎内外の安全確認。 校舎外（1年生自転車小屋裏等の校舎回り：松宮）安全確認。 校舎内安全確認（PC室横階段：■■■■、2階廊下：■■■■）</p>	<p>⑨授業者</p> <p>⑩担任以外</p>

8 事後指導

R 5 避難訓練の振り返り (教師用)

名前 _____

1. 放送後の対応、避難指示等が適切にできたか。

できた 5 - 4 - 3 - 2 - 1 できなかった

2. 避難訓練全体を通して、ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。

R 5 避難訓練の振り返り (生徒用)

年 組 番 名前 _____

○-できた ×-できなかった

1. 防護姿勢を正しくとれた。 (自分:) (学級:)

2. 静かに落ち着いて放送を聞くことができた。 (自分:) (学級:)

3. 防災ヘルメットを正しく着用できた。 (自分:) (学級:)

4. 落ち着いて、真剣に避難ができた。 (自分:) (学級:)

5. 今回の避難訓練を通して考えたこと、学んだことを書きましょう。

R 5 避難訓練の振り返り (生徒用)

年 組 番 名前 _____

○ーできた ×ーできなかった

1. 防護姿勢を正しくとれた。 (自分：) (学級：)
2. 静かに落ち着いて放送を聞くことができた。 (自分：) (学級：)
3. 防災ヘルメットを正しく着用できた。 (自分：) (学級：)
4. 落ち着いて、真剣に避難ができた。 (自分：) (学級：)
5. 今回の避難訓練を通して考えたこと、学んだことを書きましょう。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練と講義）

学校名	おおい町立名田庄中学校
報告者	渡邊 博司

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

日時	令和5年11月2日（木）9：35～11：15
想定時間	10：00 緊急地震速報による訓練放送 10：05 連日の大雨による土砂災害の危険性が高いと判断 10：07 垂直避難行動開始 10：10 避難完了後、1・2年生は体育館に移動 10：25 学校防災アドバイザーによる講義 10：40 おおい町防災安全課による避難所設営体験
参加者	避難訓練・・・中学校の全校生徒51名と教員14名 講義と体験・・・中1の17名、中2の20名、中学校の教員10名 小5の17名、小6の12名、小学校の教員6名
指導・助言者	避難訓練と講義・・・学校防災アドバイザー1名、防災士2名 避難所設営体験・・・おおい町防災安全課2名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

添付文書参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

（1）避難訓練と講義

事前指導は学校防災アドバイザーとの事前打合せ内容を参考にして、次の2つに重点を置いて学級ごとに行った。

①「中学生が避難所運営の主力を担う」という意識を持つこと。

②「土砂災害ハザードマップや避難施設を確認する」こと。

①について、始めは避難や避難所のことを自分事として捉えられていない生徒もいた。しかし、担任や級友とのやり取りが進むにつれ、真剣な表情に変わり、中学生が頼りにされているという自覚が高まった。②について、一人一台タブレット端末を活用して町総合防災マップから検索し、自宅付近や通学路の危険性や避難施設を確認した。「家で親と一緒にもう一回見てみよう」という声が聞かれ、日頃から備えることの大切さを感じていた。

避難訓練は、まず緊急地震速報に合わせてシェイクアウトした。生徒はカバー、ドロップ、ホールドオンという一連の安全確保行動をしっかりと行っていた。学級担任は指示した後、生徒ともにシェイクアウトした。その後、「連日の大雨による



垂直避難後の3階教室にて

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

土砂災害が予想される」という想定で垂直避難した。生徒も教員も気を緩めることなく行動し、スムーズに避難できた。本校校舎が土砂災害警戒区域（土石流）に立地しているため、このような想定で避難訓練を行った。

垂直避難後に体育館へ移動し、学校防災アドバイザーの講義を聞いた。講義後の避難所設営を体験する本校1～2年生と隣接する名田庄小学校5～6年生が参加した。専門用語を交えた難しい内容もあったが、資料を用いて分かりやすく丁寧に説明して下さった。「災害を知る」、「災害に備える」、「避難するとは」、「高学年や中学生は助けられる人ではなく助ける人」などの内容を語りかけるように話して下さった。小学生も中学生もとても集中して聞いていた。



学校防災アドバイザーの講義

(2) 避難所設営体験

おおい町防災安全課から2名の職員が来校してくださり、避難所設営体験を行った。説明の後に見本を示してくださり、17グループに分かれて行った。各グループには、小5・小6・中1・中2が1名ずつ入るように編成した。簡易パーテーション設営と簡易ベッド設営の2種類の体験を通して、中学生がリーダーシップをとる姿が多々見られた。ある生徒は率先して動く、ある生徒はやさしく声をかけて教える等、避難所の主力を担えるようにと一人一人が自分らしく活動できていた。

事後の振り返りでは、「実際にできるかどうかは不安だけど一生懸命に頑張りたい」、「今日学んだことを万が一のときに役立てたい」、「とても貴重な体験ができてうれしかった」等の感想が多くあり、実りある体験活動となった。



避難所設営体験の様子 左：簡易パーテーション 中：簡易ベッド

2. 課題

今回の取組を通して、学校防災アドバイザーと防災士から多くのお褒めの言葉をいただいた。一方、今後早急に対応すべきこととして、主に次の3つを教えていただいた。

- ①非常持ち出し品をリュックに入れて常にまとめておく。
- ②校舎外避難場所を見直す。
- ③保護者への緊急メール文面を事前に準備しておく。

保護者・小学校・町教委との連携を密にしながら、安全・安心な学校作りに邁進しなければならないと改めて痛感した。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

令和5年度 避難訓練（地震による土砂災害）実施計画

おおい町立名田庄中学校

1 目的

- ・地震ならびに土砂災害発生時における迅速な避難の訓練と避難体制の確認をする。
- ・生徒・教職員の安全確保を図るとともに、生徒・教職員の防災意識を高める。
- ・避難所設営体験を通して、中学生に避難所運営の主力を担える力を育む。

2 日時 11月2日（木）9：35～11：25（2、3限目）

3 想定 11月2日（木）10：00 緊急地震速報

4 訓練の内容及び分担

(1) 避難訓練の流れ（概略）

校内放送（1回目：教頭）

「（訓練放送）ただいま大きな揺れを感じています。生徒の皆さんは、揺れが収まるまで机の下にもぐり、頭を守るなどの姿勢をとってください。」

校内放送（2回目：教頭）

「（訓練放送）揺れは収まりましたが、先日から続いている大雨による土砂災害が予想されます。生徒のみなさんは、ただちに3階に避難してください。」
 <繰り返し>

避難誘導

【担任】3階へ誘導（各教室の川側に2列に並ぶ）

※1年～学習室、2年～女子更衣室、3年～3年教室

【担任外】下の（2）各係と任務に従って行動した後に3階へ（本部も）

避難状況の報告

担任→校長 「在籍〇〇名、欠席〇〇名、現在〇〇名、異状なし。」
 （※学習室・保健室生徒は向山養護教諭が報告）

体験学習

講話および避難所設営体験（防災アドバイザー、町防災安全課より）

(2) 各係と任務

本部 避難所に設ける（校長、教頭、 対応策即決、指示発令、全般の指導、監視、渉外連絡		
各 係	分担（想定）	行 動
・誘導係	1年 () 2年 () 3年 ()	学級生徒の掌握、 途中の混乱防止、 開いている窓を閉める（教室、廊下） 全生徒の避難所への誘導、 校長へ人数報告
・避難場所の整理 ・連絡係 ・救護係 ・便所等の確認 ・搬出係	川畑 教頭 1F: 2F: 3F: 	教員の避難確認と計時も行う 救急用具、健康観察を携行 避難後、残った者がいないか確認 出席簿を安全な場所へ搬出

(3) 教師および生徒の行動 以下、「防災マニュアル」に基づく

教師の行動

- ・避難経路を指示し、隊列の先頭に立って誘導する。（避難経路図を確認）
- ・身体にハンディがある生徒や当日怪我をしている生徒に配慮をする。
- ・出席簿は職員室の所定の位置に置いておく。（搬出係が搬出）
- ・養護教諭は、健康観察を携行する。

生徒の行動 「おはしもて」

- おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない・てい学年優先 の厳守
- ・放送とともに一切の行動を止め、静かにして指示を待つ。
 - ・落ち着いて、きびきびと行動する。
 - ・学用品は原則として持たない。
 - ・避難が完了したら、そのままの隊形（2列・川側に寄る）で、トイレ方向を向いて静かに待つ。
 - ・人員点呼を受け静かに待つ。終始、先生の指示に従う。

5 当日の流れ

時間	実施事項・訓練内容	備考
9:35	2限開始（事前指導）	
10:00	緊急地震速報 ・タタメット（簡易防災用ずきん）を着用し机の下にもぐる （教員も） ・訓練放送を流す ・避難開始	
10:10	避難完了 ・避難状況の報告（生徒人数～各担任、教員人数～教頭）	
10:15	1・2年生は体育館で体験学習　3年生は教室でふり返り （中1～17名、中2～20名） 小学5・6年生が中学校体育館に到着 （小5～17名、小6～12名）	児童と生徒の 異学年混合グ ループを作る。 あらかじめ3 ～4人ずつに 分けておく。
10:25	体験学習 ・講話（防災アドバイザーより）15分 ・避難所設営体験（町防災安全課より）30分	
11:10	整列 ・生徒代表挨拶（中学校2年生徒代表より感想とお礼） 指導：2年部会	
11:25	3限終了	11:15終了

6 準備物

- ・体育館放送設備（マイク2本、演台）、パソコンやプロジェクター。
- ・避難所設営体験のグッズ（パーテーションや簡易ベッド）は当日搬入される。

7 備考

- ・避難訓練の期日・時間・内容については、あらかじめ生徒に伝える。
- ・別紙を参考にして、当日までに、各学級で事前指導を行う。

8 保護者への連絡（Home&School配信）

- ・生徒の避難完了後、Home&Schoolにて以下の文面を送信する。ただし、実際に保護者へ送信すると、混乱をきたすおそれがあるため、訓練を兼ねて教職員にのみ送信する。

【例文】

<件名>

訓練メール

<本文>

名田庄中学校保護者の皆様

【これは訓練メールです】

先ほど地震が発生しました。大きな揺れは収まりましたが、先日から続いている大雨による土砂災害が予想されます。そのため、現在、生徒たちは校舎3階に避難しています。

全員無事です。このまま待機を続けます。

本日の下校の方法や時刻につきましては改めてご連絡いたします。ご理解とご協力をお願いします。

9 来校者

- ・防災アドバイザー・・・1名　　防災士・・・2名
- ・おおい町防災安全課・・・2名

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	松岡中学校
報告者	小林 萌

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

10月25日（水） 教職員19名

講師 学校防災アドバイザー 松井 峰晴様

2. 実施の目的、内容

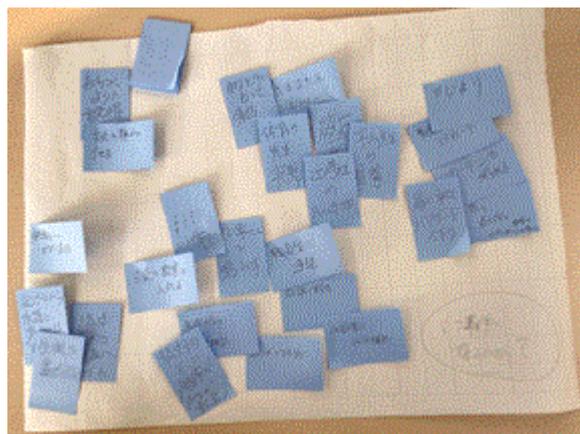
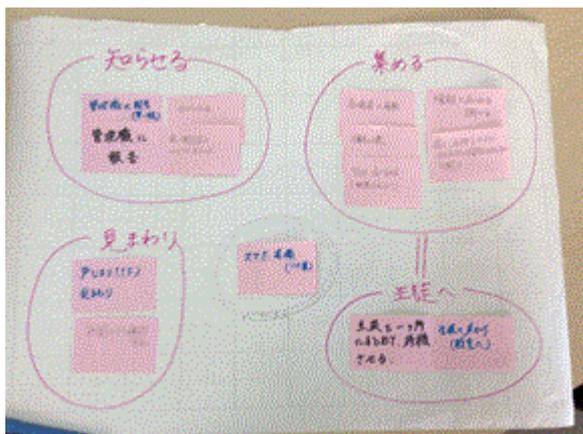
1. グループワーク（話し合い→発表）

話し合いのテーマ「素早い判断」

(1) 個人で考える【3分間】

(2) グループで意見の共有【7分間】

(3) 全体でグループごとの意見の共有【ひと班1分】



グループ協議の様子

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

2. 講義

○内容

- ・情報源を明らかにする。
- ・不審者であっても、災害であっても、放送や teams のチャット、緊急メールなどを使ってすぐに情報を共有する。
- ・危機管理マニュアルを確認し、非常事態に備える。
例：不審者を知らせる放送「松岡先生、松岡先生・・・。」
- ・自然災害についてのおすすめの防災アプリ
例) LINE スマート通知、福井県 河川・砂防総合情報
のウェブサイト など
- ・実例の紹介
他県の避難訓練（不審者対応）の様子を映像で紹介。
死戦期呼吸について映像で紹介。



講義の様子

II 成果と課題

1. 成果

近年、本校では地震や火災の避難訓練のみの実施だったため、「不審者の情報があった」ということを想定して、各自で考え共有することは、教員の防災意識を高めるために大変有効だった。中には、実際に不審者対応の訓練を経験したことのない教員もいたため、講義の内容や、実際の訓練の様子を映像で紹介していただき、具体的なイメージをもつことができた。

また、グループワークでは、具体的な場面設定をせずに意見交換を行ったため、「危機管理マニュアルについて」、「生徒対応について」、「保護者対応について」、「情報の共有の仕方について」など、多岐にわたった意見を共有することができた。

2. 課題

不審者でも自然災害であっても、学校に情報がはいったら、即時情報を確認し、共有することが必要である。そしてすぐに対応を考える。さすまたや、スプレー、消火器などがどこに設置されているか、教員の中で共通理解を図りたい。

また、避難場所もその時の状況に応じて考える必要がある。一番安全な場所はどこなのか、生徒に伝えるために教員が素早く判断することが大切である。これらのことを、教員たちがそれぞれに自分ができることを考え、判断し、同時並行で行えるようにしていきたい。

1025_学校防災事例研修（松岡中学校）

学校防災事例研修 15:30～16:30 @被服室

講師 福井県防災士会 学校防災アドバイザー 松井 峰晴 様

1. グループワーク(話し合い→発表) 15分(15:30～15:45)

テーマ「素早い判断」

- ・個人で考える（3分）
- ・グループで話し合い（7分）
- ・1班1分で発表（5分）

<グループ分け> ○司会 ◎記録 ●発表

<p><u>1班</u></p> <p>◎藤田 ○金澤 ●山崎</p>	<p><u>2班</u></p> <p>◎藤田 ●藤田 ○藤田</p>	<p><u>3班</u></p> <p>●山崎 ○藤田 ◎藤田</p>
<p><u>4班</u></p> <p>前田 ○藤田 ●山崎 ◎藤田</p>	<p><u>5班</u></p> <p>藤田 ●藤田 ○藤田 ◎藤田</p>	

2. 講義 40分（15:45～16:25）

3. おわりに(校長先生より)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	永平寺中学校
報告者	石田 涼

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

- (1) 日時 令和5年12月6日（水）
- (2) 想定時間 14:15～15:00
- (3) 参加者 全校生徒 132名

2. 訓練の目的、内容

○垂直避難訓練

目的

- ・各教室からの非常口および避難経路を確認する。
- ・いつ起こるかわからない大雨洪水に対して心構えと実際の避難方法を訓練を通して体得し、合わせて「自分の安全は自分で守る」という安全意識の高揚を図る。

内容

日程	14:15	緊急放送：「訓練、訓練。九頭竜側が氾濫の恐れがあります。活動をやめてその場で待機しなさい。」
	14:20	緊急放送：「訓練、訓練。ただいま永平寺町からレベル4の避難指示がでました。生徒は直ちに3階に避難し、1階、2階にとどまることがないようにしてください」
		①垂直避難開始 3階に避難 1年生（技術室側の階段から避難） A組・・・第一理科室 B組・・・第二理科室 2年生 パソコン室（給食室側の階段から避難） 3年生 各教室で待機
		②人員点呼 生徒の確認 学級委員→学級担任→校長 教職員の確認 各学年→学年主任→校長
	14:25	避難完了報告（3階廊下）

○学校防災アドバイザーによる講話

- ・「中学生～助けられる人から助ける人へ～」
- ・バックウォーター現象（南越前町 2022年）
- ・東日本大震災釜石市の中学生の奇跡
- ・福井豪雨の写真を使ったクイズ
- ・福井地震 「ねえちゃんはその時お母ちゃんだった」

II 訓練の成果と課題

1. 成果

(1) 避難訓練

今回の訓練は、大雨で洪水発生からレベル4の避難指示が発令されて、垂直避難をするという設

定で行った。事前に階段を上るときは外回りで避難することを担任から指導した上で訓練に臨んだ。訓練において階段を上ってすばやく避難する教室に入り、約6分で避難が完了した。地震や火災を想定した訓練の時は、体育館やグラウンドに避難をして全体で1つの場所に集まって人員点呼を行ったが、今回は各学年、クラスごとに違う教室に避難しており、廊下の中央の校長のところへ担任、学年主任が報告するという事も対応できていた。



【垂直避難の様子】



【廊下での教職員による人数確認の報告】

(2) 学校防災アドバイザーによる講話

講話の中で、東日本大震災、福井豪雨、福井地震など実際の事例から生徒たちは災害に対する認識を深めることができた。写真を使ったクイズを通して、場面ごとにどうしなければいけないかを考えたり、中学生の実話を聞いたりすることで生徒たちの防災意識が高まった。以下の生徒の振り返りに見られるように「中学生が助ける立場にならないといけない」と感じた生徒が多く、今後の学校生活のみならず地域社会で生きていくなかで、「自助」だけでなく「共助」「公助」の意識が芽生えたことは非常に大きな収穫であり、意義深い訓練だったと言える。

○生徒の振り返り

松井さんの講話をきいて、私達が普段していた火災訓練や地震の避難訓練は自分の身を守るためだけでなく他の人も守るための訓練だったのだと気づきました。私は数年前学校で震度3を体験した時、すぐさま机の下に潜る事ができていたのでやはり、日頃からの訓練というのは体に染み付いており、やっつけて良かったと思っただけではありません。永平寺町も高齢化が進んでいてその中でも動ける私達が守られる受け身ではなく、自分から率先して救助に行けるような主体的な行動が出来るようになりたいと思いました。今まで習った簡易テントの組み立てなどを訓練だけで終わらせず、実際に起きてしまった時私達中学生がいかに動けるかが大事になってくると思いました。



【講話の様子】

2. 課題

今回の垂直避難訓練においては、階段で走る生徒がいたことが課題としてあげられる。階段で走ると転倒したり、他者とぶつかったりして逃げ遅れてしまうことが考えられる。垂直避難訓練のみならず、地震火災訓練でも階段は走らず、落ち着いて避難することを徹底させていきたい。

また、学校の中においては、災害発生時に倒れる可能性のあるものへの転倒防止の対策をしていく必要がある。掃除用具入れや理科室前の本棚などがもし、地震発生時に倒れてきた際に避難の妨げになるだけでなく、最悪の場合、生徒が下敷きになってしまう可能性がある。今後、転倒防止装置を設置することを検討していきたい。

令和5年度 避難訓練実施要項

永平寺中学校

1. 日時 令和5年 12月 6日(水) 14:15～ (6限目)
実施の一週間前に来週のどこかで行うことを生徒に伝える
2. 目的 想定(大雨からの洪水発生)
 - ・各教室の非常口および避難経路の確認をする。
 - ・いつ起こるかわからない大雨洪水に対して心構えと実際の避難方法を、訓練を通して体得し、あわせて「自分の安全は自分で守る」という安全意識の高揚を図る。
3. 想定 > 大雨による九頭竜川氾濫からの垂直避難

4. 訓練実施の順序

【訓練の活動内容】

時配	活動内容	分担	留意事項
事前指導	○洪水時の対処の仕方についての指導 <ul style="list-style-type: none"> ・地震の心得、対処の方法(休み時間も含む) ・洪水の場合の避難の仕方 ○緊急放送についての指導 <ul style="list-style-type: none"> ・速報のしくみ ・避難、安全確保の方法 ○避難経路の確認(垂直避難の経路も確認する) <ul style="list-style-type: none"> ・時間割の中で、実際に使用している教室からの避難経路を考える。 ○移動時の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・押さない、駆けない、しゃべらない、戻らない ・片方の手はあけておく ○避難後の隊形、人員確認と報告の方法の確認	学級担任	★以下のことを確認 <ul style="list-style-type: none"> ○声を出さない。 ○放送を最後までよく聞く。 ○先生の指示に従う。 ○窓を閉める。
14:15	○放送 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 訓練、訓練。九頭竜川が氾濫の恐れがあります。活動をやめてその場で静かにその場で待機しなさい </div> ○放送 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 訓練。訓練。ただいま永平寺町からレベル4の避難指示が出ました。生徒は直ちに3階に避難し、1、2階にとどまることがないようにしてください。 </div>	■■■■ ■■■■	○最後尾の教員は残

<p>○避難開始（垂直避難）</p> <p>①教室、廊下の窓を閉める</p> <p>②廊下にいる人はすぐさま避難、教室にいる人は適当に並んで避難する。校舎にいる先生は 残留者がいないか確認し最後尾につく。</p> <p>③校舎内では早歩きで移動。</p> <p>1 年生・・・技術室側階段から避難 A 組・・・第一理科室 B 組・・・第二理科室</p> <p>2 年生・・・給食室側から避難 A 組、B 組ともにパソコン室（くつは脱がずに）</p> <p>3 年生・・・A 組、B 組各教室</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人員を点呼し報告する (学級委員→学級担任→教頭→校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級委員 → 学級担任に報告（避難教室）「男子○人女子○人計○人全員います。 欠席は○○です。」 ・学級担任は、今一度人員を確認する。 ・学級担任 → 教頭に報告 「○年○組在籍○名欠席○名現在○名います。異常ありません」 ・教員：各学年→学年主任→教頭→校長 学年主任・・・学年の教員がいるかどうかを確認し教頭に報告 ・教頭・・・全体を掌握して校長に報告 (教員の数も) </div> <p>○安全確認と救護 教室担当以外の教員で 1 階校舎、1 階本館、2 階校舎、2 階本館、体育館の安全確認</p> <p>☆保健室の休養生徒の避難誘導 ☆相談室の生徒の避難誘導 ☆安全確認と残留者確認と救護 校舎 1 階残留者確認と救護 校舎 2 階残留者確認と救護 校舎 3 階残留者確認と救護</p>	<p>っている生徒がいないかを確認する。</p> <p>○階段では特に、「押さない」に注意する。</p> <p>・「声を出さない」で避難することができるかを確認する。</p> <p>・校舎 2 階、体育館は残留生徒がいないか確認し、避難する。</p>
<p>14 : 25</p>	<p>前田</p>

14 : 30	☆出欠黒板を確認し、出席簿を持ち出す。 ○避難完了 (全員の安全が確認できたら放送)		
	○体育館に移動 校長先生のお話 学校防災アドバイザーの松井様よりご講話 ・避難訓練の講評 「中学生～助けられる人から助ける人へ」 ・東日本大震災時の釜石市の中学生のエピソード ・福井豪雨の写真を使ったクイズ		
15 : 00	・バックウォーター現象 (2022 年南越前町) forms を使った振り返り 終了予定		

【避難経路について】

<大雨 垂直避難 >

- 1 階教室 (1 年 A 組) 東階段→3 階→第一理科室
- 1 階教室 (1 年 B 組) 東階段→3 階→第二理科室
- 2 階教室 (2 年 A 組) 西階段→3 階→パソコン室
- 2 階教室 (2 年 B 組) 西階段→3 階→パソコン室
- 3 階教室 (3 年 A 組) 自教室で待機
- 3 階教室 (3 年 B 組) 自教室で待機

○役割分担

校長

- 講評
- 全体指示
- 避難完了の把握

教頭 (教務)

- 出欠黒板の確認後出席簿持ち出し
 ○拡声器の持ち出し、教員の数も報告

笠川

- 保健室の生徒の避難誘導

(授業担当最後尾) ○校舎 3 階残留者確認と救護

(授業担当最後尾) ○校舎 2 階残留者確認と救護

(授業担当最後尾) ○校舎 1 階残留者確認と救護

木谷

- 避難訓練終了後に教育委員会へ報告

笠川 ()

- 相談室の生徒の避難誘導 (いれば)

各クラスの授業担当

- 普通教室からの避難誘導、担任は放送後に
 生徒を廊下に並ばせて垂直避難を開始する。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	上志比中学校
報告者	橋本 秀徳

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

- ・11月22日（水）
- ・14:25頃（自然災害：大雨・暴風雨等、災害レベル2：自主避難）により下校させ、無事に帰宅できたかを持ち帰ったiPadのTeamsの投稿機能を使用して連絡させる。

参加者：1学年：18名
2学年：21名
3学年：20名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

別紙参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

事前打ち合わせ（10月31日）では以下のことを防災アドバイザーの方より教えていただいた。

- ・災害のレベルで自主避難か、学校待機かを決定する方法がある（客観的な指標）。
- ・学校待機すべき場合には、待機させる（災害レベル3以上）。
- ・自主避難させる場合にも、川の氾濫、道路の亀裂や橋の崩壊などの危険性を確認する必要がある場合がある。
- ・家で待機させる場合には、浸水などが考えられる場合、上の階の山とは逆側で待機するよう指示することが大切。

当日（11月22日）、下校訓練を行った際には、以下の成果が挙げられた。

- ・iPadのTeamsを家庭で使用し、安全を報告する体験をさせることができた。
- ・2の課題を再度確認することができた。

2. 課題

- ・地震や、荒天時などにおいて、どういった状況のときに、どういったタイミングで生徒を帰宅させるか、学校にとどめ置くか、すべての家の人に迎えを頼むとかいった決定を下すことは、たいへん難しい。タイミングや状況の判断を誤ると、東日本大震災のときのように、避難が遅れ、危険な状況につながることもなり得る。
- ・当然、最終的には校長が判断を下すが、しっかりメディアを通じた情報収集を行ったり、教頭や他の職員の意見をもとにしたり、緊急で会議を行ったりして総合的に判断しなければなら

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

らない。安全の担当者は、管理職に相談し、管理職からの指令、または話し合いによって決定したことを、職員と連携をとりながらすばやく実施できるよう努める。

- 難しい場面での判断においては、「この状況なら大丈夫ではないか」と思える場合でも、そのように思いこみすぎず、「急に状況が悪化することで思わぬ方向に事態が動くかも」ということまで、広く想定しておくことが大切である。
- Teams で連絡を送ることを忘れてしまった生徒が数多く見られた。忘れないようにするための工夫が必要である。
- 本校では、初めての下校訓練であり、また iPad の投稿に慣れていない生徒もいたようである。今後、iPad の投稿などが誰にでもできるよう、事前に確認するなどする必要がある。

令和5年度 緊急時の下校訓練 実施計画（案）

上志比中学校

1. 訓練目標

- ①児童：担任の指示に従い、安全に下校する。
：家に無事に着いたかを teams を使って連絡する、または電話で確認する。
- ②教職員：緊急時を想定し、安全・確実に引き渡しする。
- ③保護者：引き渡しの方法を知り、安全に児童を引き取る。

2. 実施日時 令和5年11月22日（水） 14：25～

3. 災害想定および下校の方法

(1) 事前に災害の可能性が想定される等

- ◆自然災害（大雨・暴風雨等）が事前に想定され、自分で帰宅でき、校長が必要と判断した場合（数時間後に荒天（暴風雨）が予想され、現在であれば自力での下校が可能である（災害レベル2以下））ので、急遽、授業を切り上げ、保護者に連絡し、徒歩、自転車で、または車での迎えによって下校する。生徒は、帰宅後すぐに Teams を使って、帰宅できたことを報告する。）

○緊急メール（電話等）により、生徒の緊急帰宅の連絡をいたします。
○【訓練】今日は数時間後暴風雨が予想されております。そこで、下校時刻を●時●分と早めます。
（○迎えの方は、お迎えをお願いします。）
○家に帰りましたら、iPad→【Teams】→【学年】→【一般】→【投稿】により、帰宅の連絡を生徒から送ることになっております。 例：「帰宅しました。」

4. 事前の準備

- 保護者への「引き渡しカード」作成依頼
 - ・年度はじめに内容の更新・確認を行うものとし、記入、年度更新による変更は鉛筆です。
 - ・担任は、「引き渡しカード」を回収し、ファイルに閉じておく。
- 緊急時の引き渡し訓練（今年度は下校訓練）の協力依頼の通知を出す。（教頭）
- 帰りの会を事前（昼休み等）に行ってしまう。（時程調整：教務）

5. 役割分担

- 下校確認 担任、●●●、●●●（安全担当）
- 生徒玄関 無担の先生方
- 緊急時対応 ●●●、●●●……電話・外部機関等への対応、下校状況の把握

6. 日程および活動内容

予定時刻	教職員の動き	児童の動き
14:25	<p>◆（引き渡し）緊急メールの配信（教頭）</p> <p>「【訓練】今日は数時間後暴風雨が予想され「今日は数時間後に暴風雨が予想されております。そこで、下校時刻を 14 時 30 分とします。安全のため、下校を早めることにし早めることとします。」</p>	<p>◆放送（教頭）を聞く。</p> <p>「今日は数時間後に暴風雨が予想されています。安全のため、下校を早めることにしました。生徒の皆さんは帰る用意をして、すぐに下校しましょう。」</p>
14:30	<p>◆担任は、iPad が配布されているかを確認し、下校した後 Teams の各クラスの投稿から帰宅した連絡を行うよう指導する。</p> <p>「〇〇（名前）帰宅しました。」</p> <p>※うまく投稿できない場合、家に Wifi 環境が整備されていない場合などには、学校に電話連絡することを指導する。</p>	<p>◆代議委員は iPad をクラス全員に配布。</p>
14:50～	<p>◆状況の確認（iPad 受信）</p> <p>連絡が来ない生徒への対応（担任）</p> <p>◆下校完了の報告</p> <p>担任→本部（校長）への報告</p>	
15:30	<p>◆下校の確認完了</p>	

7. 事前指導事項

真剣な態度で訓練に参加し、いざというときに安全に行動できるようになるために、事前に下記のことについて十分な指導をお願いします。

- 常日頃から、校内放送をしっかりと聞き、自分の耳で放送内容を確認めるよう心掛ける。
- 校内放送や非常ベルが鳴ったら、すぐに口を閉じて、その場で動きを止める。
- 迎えが来ても騒いだりせずに最後まで静かに下校する。
- 下校時の安全にも注意する。
- ※保護者へも、普段から、学校からの緊急メールへの注意をお願いしておく。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書

(避難訓練・危機管理マニュアルの見直し)

学校名	長畝小学校
報告者	齋藤 雅実

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

日 時	令和5年11月14日(火) 10:00~10:50
想定時間	震度5弱の地震が発生(緊急地震速報発報端末装置より発報)
	10:00
	地震後に給食室から出火
	10:03
	体育館に避難
	10:05
	气象台職員による講話
	10:10~10:20
	学校防災アドバイザーによる講話
	10:23~10:45
参加者	全校児童 294名 教職員25名 計319名
指導・助言者	学校防災アドバイザー 松井 峰晴

2. 訓練の目的、内容

(1) 目的 添付文書参照

(2) 内容 添付文書参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

○実践に結び付く避難

- ・児童は、事前指導で学習したことを生かし、帽子をかぶって頭を守り、口にハンカチを当てて、姿勢を低くして、冷静に落ちついて避難することができた。
- ・児童は、体育館に並ぶ際、教師の指示を聞きながら素早く並ぶことができた。
- ・教師は、児童と共に机の下に避難した。しかし、児童から目を離すことなく指導し続け、児童の安全を常に確保することができた。
- ・教師が児童と共に避難行動を行うことで、児童は避難訓練への意識を高めることができた。



【体育館に避難】

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

○実践に結び付く知識の獲得

- ・ 気象台の方や学校防災アドバイザーの方から、地震発生メカニズムや緊急地震速報システム、安全な避難の仕方を学ぶことができた。



【避難訓練後の気象台の方による講義①】



【学校防災アドバイザーによる講義②】

2. 課題

○実践に結び付く避難環境の改善

- ・ 地震後の避難であるため、キャスター付きのラックや作品棚などが動くと予想される。次回は廊下にカラーコーン等を設置して避難の障害になる物を置き、より実際に近い環境で避難訓練に臨ませたい。

○実践に結び付く避難対応の改善

- ・ 避難時、廊下と階段の合流地点で他学級が通り過ぎるのを待つ場面を見かけた。譲り合うと避難が遅くなるので、1・3階は内回りで、2階は外回りで歩くように指導したい。
- ・ 出火元の上の階は煙が早く充満する。そこで、窓を閉めて避難するように指導したい。

Ⅲ 危機管理マニュアルの見直し

避難訓練後、学校防災アドバイザーと本校の危機管理マニュアルの見直しを安全管理の8つの視点をもとに行った。

情報管理の視点では、平素からの連携が大切であるが、「いかに情報を得るか」が話題となった。リアルタイムに情報を得ることができるインターネットは、信頼できる情報であるかどうか確認した上で、積極的に扱うようにとのことであった。そこで、坂井市が配信している緊急速報メールの活用をアドバイスされた。

他に、福井県河川・砂防総合情報メール（i-ameメール）を紹介された。市町ごとに水位・雨量・洪水予報・土砂災害警戒・気象警報について設定できるとのことなので、すぐに登録した。正しい情報を的確に収集し、危機回避に生かしていきたいと思う。

次に、不審者対応の視点から見つめ直した。登下校時における緊急事態発生時の対応

については、不審者情報・事件の第一報に対して緊急対応が必要な場合、警察や消防署、教育委員会、見守り隊、保護者と連携・連絡を取りながら児童の安全確保と避難誘導を最優先で行うことを助言された。学校における不審者への緊急対応では、立ち入りの正当な理由がない場合毅然とした態度で退去を求めるとともに、危害を加える恐れがある場合、別室に案内して隔離を試みる。しかし、隔離ができない場合は、教職員で役割分担をしながら児童に不審者を近づけないようにして安全を守ることを最優先とすることを助言された。

また、事後対応として、児童の心のケアや再発防止対策を講じていくことを助言された。不審者対応避難訓練では、ハンドマイクを実際使用することでより実践的な訓練になるとのことであった。

他に、教師だけの模擬引き渡し訓練を紹介された。保護者役など教師が役割を分担して引き渡しをシミュレーションするとのことであった。この訓練を通して、教師の対応力を高めることができるとのことであった。

負傷者が出た場合の視点については、心肺蘇生法の重要性について ASUKA モデルの活用で示された。このモデルは、さいたま市教育委員会が作成した体育事故時等における事故対応テキストの愛称である。このモデルでは、意識や呼吸が「わからない」という選択肢を設けることで、迷った場合、119番通報やAEDの手配、胸骨圧迫に移るよう強く求めている。また、死戦期呼吸やけいれんについても重視し、積極的に胸骨圧迫やAEDの使用を強く勧めている。

避難袋を使った避難訓練では、教師たちが訓練を通してより安全な救助袋の使い方に気づき、訓練の中で改善していくことの話をついた。マニュアルは大切ではあるが、場に合った対応の大切さを再認識した。

最後に、火災が発生した場合の視点で強調されていたことは、煙の怖さであった。煙の速さは垂直方向に駆け足の速さ、水平方向に歩く速さで想像以上に早いものである。また、煙が中毒や呼吸困難、火傷、パニック状態を起こすようになり、安全な避難を難しくするものであることを再認識した。避難時に口にハンカチをあてたことやハンカチがない場合は袖などで代用していたことは、今回の避難訓練で徹底されていたとの講評を受けたが、児童の命を守るために今後の訓練でも徹底させていきたいと思う。

今回の見直しで次のことが指摘されたので危機管理マニュアルを訂正した。これまでは引き渡し基準の風水害災害において「避難勧告」が記載されていたが、令和3年5月20日に「避難勧告」が廃止されたので、「避難指示」の内容にまとめることにした。保護者に引き渡しを行うか留め置きにするかどうかは、学校から地区の方に電話することで災害状況を正確に把握した上で、児童の安全が確保されていることを基準に判断するようにしたい。

(様式2)

添付資料

令和5年度 防災避難訓練実施計画

1. 目的 緊急時において、児童・教職員が適切な行動を取ることができる。
2. 日時 令和5年11月14日(火) 10:00~10:50
3. 想定事態 ①授業中に震度5弱の地震が発生(緊急地震速報発報端末装置より発報)
②地震後に給食室から出火
4. 避難場所 グラウンド(雨天時:体育館)
5. 事前準備 ・消防署、業者に非常ベルの連絡を入れておく。(教頭)
・足ふき用のぞうきんを用意し、避難後に敷く。
6. 事前指導 ①避難経路、避難出口の確認(避難先がラウンドの場合と体育館の場合)
②避難姿勢
シェイクアウト…「地震を吹き飛ばせ(振り払え)」というニュアンスの造語で、地震発生時の安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身に付けるための世界規模の運動。



- ・教室:机下にしゃがむ
- ・体育館:中央でしゃがむ(手で頭を守る)
- ・グラウンド:校舎や遊具、電柱などから離れてしゃがむ(頭を守る)
- ・廊下:中央でしゃがむ(頭を守る)
- ・トイレ:廊下に出てしゃがむ(頭を守る)

③避難時

- ・放送を聞く・先生の指示に従う。整列して避難する。
- ・おさない・かけない(走らない)・しゃべらない・もどらない・ちかづかない
- ・頭を守る。帽子があればかぶる。廊下中央を通る。落下物注意。
- ・火災の煙発生時は、ハンカチで鼻、口を覆い避難する。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

7. 当日の流れ

時刻	流れ(放送)	教員の動き
10:00	<p>緊急地震速報 (緊急地震速報発報端末装置より発報) <音声> 「訓練です。およそ〇秒後に震度5程度の地震がきます。」 <NHK音> 「およそ〇秒後に、震度5程度の地震がきます。」 「10、9、8、、、」 「震度5程度の地震がきます。」 「揺れが収まるまで身を守ってください。」 <地震音> 「訓練です。」</p>	<p>(教頭)</p> <p>【担任指示】「机の下に隠れなさい。」 ・特に頭を隠すようにする。 ・シェイクアウト ・避難口確保のため、戸を開ける。</p>
10:03	<p>火災非常ベル (放送) 「訓練、訓練。地震は収まりましたが、給食室が火事です。」</p>	<p>【現場確認】 () 「火事だ！」 【初期消火活動】 初期消火係 () 【消防機関への通報】 () ①事故の種別 ②所在地 ③建物等の名称 ④火災の状況 火災の内容が十分把握できていない段階でも通報し、状況を確認でき次第、随時情報を通報する。 消火困難→職員室報告</p>
10:05	<p>「訓練、訓練、火災が広がっています。すぐにグラウンドに避難しなさい。」 グラウンド避難(雨天時:体育館) ※当日は气象台の方の講話があるため体育館に避難</p>	<p>【担任指示】 帽子を被らせ、安全な避難経路で避難させる。(窓を閉める) 危険個所(ガラス、落下物)に注意させる ☆残留者確認(児童がいない場合) 1階南校舎: () 2階西北東校舎: () 3階北校舎: () 3階南校舎: () 【担任指示】 掲揚塔前に朝礼順で整列 (遊具側1年、砂場側6年)</p>

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

10:15	避難完了 講評(校長、防災アドバイザー、消防署)	【担任報告】人員点呼および報告 (学級担任から教頭へ) 「〇年〇組 〇名 本日欠席〇名全員避難完了しました。(1名不明です)」(あそ担任も報告する) ※自衛防災隊長(校長)の指示で救助・初期消火・搬出・児童掌握の各係出動。
10:25	气象台の方の講話	(雑巾準備)
10:50	教室へ戻る	

8. 事後指導 注意を守って落ち着いて行動できたか。災害への心構えの再確認をする。

9. 役割分担

- ①校内放送・通報(教頭・■■■)
- ②初期消火(■■■■■■■■■■)
- ③全体司会進行(■■■)
- ④雑巾準備(■■■、支援員)

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立磯部小学校
報告者	戸田 浩一郎

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

実施期日：令和5年11月2日（木）10:00～10:50

参加者：全校児童423名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

別紙「令和5年度 地震対応・火災対応避難訓練 実施要項」参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

10月に緊急地震速報装置が設置され、これが発する緊急放送をこの訓練でも使用してみた。音声や警告音などがTV等で放送されるものとほぼ同じであったため、児童は緊張感をもって行動していた。また、事前に実施期日を知らせたり、非常時の行動について指導を行ったりしていたため、児童はパニックになることもなく、落ち着いて安全確保の行動を行うことができた。

訓練の最後に、学校防災アドバイザーから様々な災害時で気をつけることをお話いただいた。そこで低学年を優先して避難させることの大切さに気付くことができた。



2. 課題

- シェイクアウトでは、職員は児童の安全を確認した後、自分の身を守る行動をとること。（訓練でも同じ）
- 避難時2階の階段付近が混雑する。3階から降りてくる児童は手すり側、2階から降りる児童は壁側を避難するとよいこと。
- 担架やAED等も持ち出すことを考えておくこと。
- 非常用持ち出しバッグのようなものを用意するとよい。その中に児童名簿（印刷したもの）を入れておくことよいこと。

令和5年度 地震対応・火災対応避難訓練 実施要項

R5.10.2 防災担当

1 期日

令和5年11月2日(木) 10:00~10:50 (にこにこタイム~3限目)

2 目的

- (1) 非常災害時において全校児童を安全かつ迅速に避難させる。
- (2) 避難訓練の重要性を自覚させるとともに、生命を尊び安全の保持に努めさせる。
- (3) 地震発生時の緊急地震速報発報端末装置の作動状況を確認する。
- (4) 火災発生時における教職員の初期対応訓練を行う。

3 想定

地震発生 → 理科室より火災発生 → 火勢が強く全校避難

4 事前指導(学級指導)

(1) 災害発生時の対応について

○地震時におけるシェイクアウトなど



※「クイズで学ぼう!(地震編)」消防庁も参考に “防災 地震 小学生 動画”で検索(6分33秒)

○火災発生元(あるいは煙)から遠ざかるほうへ避難

→ 避難先などは 放送をよく聞いて把握する ※ふつうは晴天ならグラウンド, 雨天なら新体育館

(2) 緊急放送を聞くときの約束 … いつもとちがう時間に放送があったら…

- ①すぐに活動を止める
- ②口を閉じて聞く

(3) 素早く避難する方法についての確認

- 自分の存在をはっきりさせるために赤白帽子をかぶる
- 煙を吸わないこと → ハンカチで口と鼻をおおう
- 避難のときには … 「お」さない・「は」しらない・「し」やべらない・「も」どらない
- グラウンドに出たら、しゃべらず静かにかけ足で集合する

5 訓練内容

(1) 訓練の流れ

時間	児童の活動	教師の活動
10:00	○緊急地震速報	★ 緊急地震速報 (緊急地震速報発報端末装置より)
	<p>訓練です。およそ〇秒後に震度5程度の地震がきます。</p> <p><緊急速報音></p> <p>およそ〇秒後に震度5程度の地震がきます。…3, 2, 1 (カウントダウン)</p> <p>震度5程度の地震がきます</p> <p>揺れが収まるまで身を守ってください</p> <p><地震音></p> <p>訓練です</p>	
10:05	 <p>○教室待機</p> <p>【担任が児童を把握しておく】</p> <p>※口を閉じる! 動かない!</p>	<p>○担任のシェイクアウト指示</p> <p>○揺れが収まったら, 出入り口を開放 (避難経路確保)</p> <p>★ 火災報知機の非常ベル</p> <p>○ (教頭→職員室の職員へ指示) 消火器をもって理科室へ急行</p> <p>※初期消火 & 職員室へ報告</p> <p>○ (教頭) 火災報知機確認中の緊急放送</p>
	<p>訓練、訓練。ただ今火災報知機の確認をしています。静かに待機しなさい。(2回)</p>	
10:07		<p>★ 理科室の出火が大きくなる</p> <p>○初期消火は継続 ※避難指示まで</p> <p>○ (教頭→漆原へ指示) 消防署通報</p>
	<p>訓練、訓練。磯部小学校、ただ今理科室より出火しました。出動をお願いします。</p>	
		<p>○ (教頭) 全校へ緊急放送</p>
	<p>訓練、訓練。ただ今、理科室より出火しました。すぐに〇〇へ避難しなさい。(2回)</p>	
10:10	<p>○避難開始</p> <p>※帽子着用</p> <p>ハンカチで口と鼻をおおう</p> <p>「おはしも」を守る</p>	<p>※ (防災担当者) 避難にかかる時間の計測スタート</p> <p>○ (担任) 教室の児童に避難指示</p> <p>※避難経路を決める, 窓を閉める</p> <p>「おはしも」を忘れない</p>
10:20	<p>○避難完了</p> <p>※うんていを正面に朝礼隊形</p>	<p>○人員点呼と報告 担任→教頭→校長</p>
	<p>○年〇組、在籍〇名、欠席〇名、〇名全員います。</p>	
		<p>※ (防災担当者) ストップウォッチ計測</p> <p>※ (担任) 出席簿を持参する</p> <p>※マイク用意, 全体進行: 防災担当</p>

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立春江西小学校
報告者	木内 健次

I 避難訓練の実施状況

1. 令和5年11月9日（木） 2校時（9:15～10:00）

（事前打ち合わせ 11月1日）

参加者 児童 286名 教職員 24名 合計 310名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

目的

防災防火についての意識の高揚を図るとともに、不意の災害から自他の生命や身体を守ろうとする態度や習慣を身につける。

緊急時に、迅速に保護者に児童を引き渡せるように、校内での体制を整えられるようにする

内容

9:20 緊急地震速報システム作動

9:21 校内放送（安全確保、待機指示）・校内安全確認

9:24 安全確認完了・校内放送（避難指示）

9:30 避難完了・人員確認

9:35 講話（気象庁職員・学校防災アドバイザー）

II 訓練の成果と課題

1. 成果

避難訓練前に、学年に応じて緊急地震速報による訓練の様子（高学年）、または地震発生際の行動の仕方（低学年）についての映像を視聴した。このことで、地震発生時の行動についての知識を指導することができ、児童は、訓練の際に落ち着いて行動していた。また、事前の打ち合わせでご指摘いただいた避難の際の動線について見直すことができ、迅速に避難行動を取ることができた。

児童のふり返りからも落ち着いて身を守る行動を取ることの大切さを実感している様子が見られ、防災に対する意識の向上を図れたものと思われる。また、防災アドバイザーの講話で紹介された実話を聞いて、大地震が身近なものであると感じるよいきっかけになった。

2. 課題

今回の訓練では、担任の授業中に地震が発生する想定であった。担任ではない教員が授業をしていたり、教室を離れて授業をしていたりする場合や、休み時間などに地震が発生することも想定される。いつ地震が起こっても児童が冷静に行動できるためには、「いつ地震が起こるかもしれない」という意識が必要である。教員が常に危機意識をもちながら、児童に指導していくことが重要であると考えます。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

また、今回の訓練では、時間の都合で下校が困難になった場合の保護者への引き渡しの訓練ができなかった。引き渡しをするときの方法について、再度、教職員で共通理解をする機会を設け、来年度の訓練では引き渡しの訓練もぜひ実施したい。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立加戸小学校
報告者	加藤晴美

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

実施期日：令和5年12月4日（月）

想定時間：10：30～11：20（休み時間から3時間目）

地震発生…1回目10：30（震度4）2回目…10：37（震度5強）

体育館に避難した後、防災教室（講師：学校防災アドバイザー）

参加者：全校児童155名 教職員17名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

本年度設置される緊急地震速報システムを利用して避難訓練を実施し、緊急地震速報が出た場合の行動の仕方について体験させる。

一人一人が「いま自分がすべきこと」「自分より困った状況の人はいないか」を絶えず考え続けるということ、教職員と子どもたちが協力して命を守り抜くということについて重点的に取り組んでいく。そのために、地震の発生を休み時間とし、さらに震度4の地震のあとに、2回目の地震が発生したという想定で訓練を行った。

※ 別添「避難訓練、防災教室計画」参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

学校安全総合支援事業の第1回推進委員会(6/20)、第1回実践委員会(8/24)、そして、防災アドバイザーの方々との打合せ(11/21)で、ふだんからの防災に対する意識、新しい情報について学んだ。それをういて、今回の避難訓練を計画し、いかすことができた。今回の避難訓練を計画したときに、今までとこえた点は次の4点である。

- ①児童に開始時間を知らせず、休み時間に行う。
- ②震度4の地震のあとに、震度5強の地震がおこる。
- ③避難場所は、耐震性のある体育館でも十分であるということから体育館に避難する。
- ④各階の校内最終確認を決めずに、そのときに声をかけあう。

避難訓練当日は、児童はそれぞれの場所でシェイクアウトの体勢をとるができ、教職員もそれぞれが考え、声を掛け合い、安全な場所への誘導や体育館の出口の確保ができた。最初の地震が終わり、安心していただけの子どもの表情が、2回目の地震でかわったというのを聞いたとき、2回の想定をしてよかったと感じた。地震が一度で終わらないということの気づきは今後の人生で大切だと思う。

避難後に行われた防災教室では、防災アドバイザーの方が、今回の避難訓練中の写真（廊下に置かれたアップライトピアノの前でシェイクアウトの体勢をとっている児童の写真）を使いながら話をしてくださったので、全員の心の中に、危険なものがたくさんあるということ、考えて避難しないといけないということ、ふだんからものが倒れてこ

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

ないかを考えなくてはいけないことなど、強く心に残った。

本校では、3カ月ごとに「危険かもカード」を全校児童と教職員に書いてもらっている。一人一人が危険な場所、危険なことに敏感になってほしいからである。今までは、「ろうかには走らない」や「たなの上のノート」のような内容だったが、防災教室のあとには、「教室のモニター」「黒板の近くの蛍光灯」「廊下のガラスケース」「めだかの水槽」「ロッカーの上のタブレット保管庫」という内容に変わり、全員が危険箇所を書いてきた。防災教室で子どもたちが自分事として深く考えられた結果だと思う。子どもたちの気づきを私たちは大切にしていきたい。

2. 課題

防災アドバイザーの方々には、本校の「危機管理マニュアル」のよい点と改善点、学校の危険箇所、避難訓練計画への助言などたくさんのことを教えていただいた。自分では気づかなかったことや新しい知識や情報がいっぱいいて、毎年、学んでいきたいと思った。機会があるたび、機会を自らつくって、子どもたちや教職員と防災意識を高めていきたいと思う。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

令和5年度 避難訓練、防災教室計画

坂井市立加戸小学校

1 目的

- 緊急地震速報を活用した地震発生時における避難訓練を実施する。
 - ・児童の防災意識を高め、非常時に落ち着いてすばやく安全に避難できるようにする。
 - ・児童を迅速、安全、確実に避難誘導する方法を確認する。

2 日時

令和5年12月4日(月) 10:30~11:20

※児童には、日は知らせるが、開始時刻は知らせない。グラウンドには行かない。

3 日程

10:30~10:50 地震発生時の安全確保訓練(体育館への避難)

10:50~11:30 防災教室(体育館)

4 訓練の着眼点

- ・地震発生時の安全確保訓練
- ・避難の要領と避難口の把握

5 状況想定

- ・休み時間の10時30分、震度4の地震が発生する(1分間程度)。
- ・その後、揺れがおさまったので、避難をせず、もとの活動を続ける。
- ・10時37分、さらに震度5強の地震が発生する(1分間程度)。
- ・全員、体育館に避難をする。

6 避難時の携帯品

担任………名簿(児童出席簿)

教務主任…誘導用具(ホイッスル、ハンドマイク)

養護教諭…救急医薬品(消毒液、外用薬、ガーゼ、包帯等)、(AED)

教頭………点呼票

児童………防寒着(避難するときに着てしまえばよい)、水筒

7 事前指導

(1)地震からの身の守り方(R5.11.2 シェイクアウト訓練を行った。)

- ・頭を守る。
- ・すぐに机の下に入る。動かないように机の脚をもつとよい。
- ・壁から離れる。ものが落ちてこない、倒れてこない場所で身を潜めて安全を確保する。
- ・逃げるときには、窓や扉は開ける。履き物は必要(遠いところまで逃げるので)。

(2)火事するときに出る煙からの身の守り方(R5.7.4 避難訓練【地震・火事】を行った。)

※今回は火事にはならないが、くり返しの指導は大切なので、指導をお願いします。

- ・ハンカチを鼻と口にあてる。
- ・一般的に煙は上にいくので、できるだけ身をかがめて避難する。外に出たら体を起こしてよい。
- ・逃げるときには、窓や扉は閉める。履き物はそのまま(一刻を争うので)。

(3)避難について(同じ場所に集まるということで、心の安心にもつながる。)

- ・放送がかかったら、~~やつも、どんなときも~~口を閉じて、しっかり聞く。声を出して助けを求めることも必要。
- ・どんな状況なのか、どこに逃げるのかを聞き取る。
 - ※体育館や外にいた場合、教室に戻らない。安全なところにいることが大事。
 - ※火の方向には行かない。煙がくる。外に出ることが大事。
- ・ふだんから、何かあったときは「グラウンド国旗掲揚塔前」に集合することを伝えておく(例外もあり、今回は体育館)。
- ・「避難をします。〇〇の前を通過して、〇〇に行きます。」というように避難訓練では教師が具体的に指示をするということ。しかし、休み時間のときに避難する場合、どのように避難するとよいかということも考えさせる。
- ・「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない、低学年優先。」を機会があるごとに指導する(雪道や危険な道など、場面より、高学年が先に行くこともあります。)

8 当日の流れ

時刻	内容	指示	担任からの指示 児童の動き
10:30	緊急地震速報システムによる校内地震発生放送	<p><緊急地震速報 1回目> ……(事務)</p> <p>「訓練、訓練。これは緊急地震速報の訓練です。およそ〇〇秒後に、震度4程度の地震がきます。」</p> <p><地震の音></p> <p>「揺れがおさまるまで身を守ってください」</p>	<p>児童、教職員</p> <p>シェイクアウトの体勢をとる。</p> <p>担任(教職員)</p> <p>「頭を守る。」</p> <p>「机の脚をもつ。」</p>

10:32	待機のアナウンス	<p><全校放送> ……(教頭) 「ゆれはおさまりましたが、また地震が起こる可能性があります。指示があるまでその場で待機しなさい。」</p> <p>○対応を校長に相談 ……(教頭) ○待機解除の指示 ……(校長) 「待機解除。」</p>	担任(教職員) 「放送を聞く。」
	待機解除のアナウンス	<p><全校放送> ……(教頭) 「揺れがおさまりましたので、気をつけながら活動を続けましょう。先生方は、地震で壊れたところがないか、点検をお願いします。」</p>	担任(教職員) 「また地震がくるかもしれないので、気をつけてね。」 教室の周りの点検。
10:37	緊急地震速報システムによる校内に地震発生の放送	<p><緊急地震速報 2回目> ……(事務) 「訓練、訓練。これは緊急地震速報の訓練です。およそ〇〇秒後に、震度5強の地震がきます。」「揺れがおさまるまで身を守ってください。」</p> <p>○対応を校長に相談 ……(教頭) ○全校避難の指示 ……(校長) 「全校避難。」</p>	児童、教職員 シェイクアウトの体勢をとる。 担任(教職員) 「頭を守る。」 「机の脚をもつ。」
10:40	校内放送による指示	<p><全校放送> ……(教頭) 「訓練、訓練、校舎内にいる人は、体育館に避難します。落ち着いて体育館に避難しなさい。体育館にいる人は教室にもどらず、そのまま体育館にいるように。」 ○体育館で、中央に集まるように指示 ……(教務) ○体育館の扉を全部開ける ……(教職員)</p>	担任(教職員) 「今から、体育館に避難します。」 「防寒着、水筒を持っていきます。」 児童…それぞれ避難担任…声をかけながら自分も体育館へ
	校内最終確認	○各階の最終確認 ……(各階)	各階で声をかけて
	消防署へ通報(今回は通報しません)	<p>○消防署へ通報 ……(事務) 「訓練です。こちら加戸小学校です。ただ今の地震により、けが人が1名います。」 <確認される事項> 救急か火災か→救急 どこに避難しているか→体育館 教職員と児童の人数→児童155名、教職員17名が避難。 けがの程度→けが人は職員。ガラスによるけがで、出血が多い。止血中。</p>	
10:43	避難完了	<p>○避難場所(体育館、集会の隊形)に集結後、各担任は速やかに児童の人員を点呼し(必ず児童の横に行き、一人一人確認すること)、異常の有無を教頭に報告する。 「□年□組、全員避難しました。負傷者は△△△△です。」 ○教頭は、全児童の点呼完了を校長に報告する。</p>	
10:45	講評	○校長 ○校長先生のお話の後、トイレ休憩をとる。	
(10:45)	(報告)	○坂井市教育委員会へ報告 ……(教頭) 「訓練、訓練。加戸小学校です。先ほどの地震で、児童155人、教職員17人、体育館に避難しました。うち負傷者□人です。1名、ガラスでけがをした職員がいるので、救急車を要請しました。」	
10:50	防災教室	<p><防災教室> ○学校防災アドバイザー松井峰晴氏、福井地方気象台中堀康弘氏、丹下昭彦氏による防災教室(体育館) <準備物>体育館スクリーン、プロジェクター、長机2つ、いす3脚、名札 ……(教頭 教務)</p>	
11:30	避難訓練後	○教室で、「危険かもカード」を書く。	

<避難訓練の連絡先>

嶺北三国消防署 82-6119 クラウン防災(非常ベル) 66-5200
伸海エンジニアリング(警備保障) 81-6123

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市立三国西小学校
報告者	森阪 貴徳

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

令和5年11月21日（火）5限目 13:15～14:00

全学年115名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

- 突然起こる災害に備え、日常の予備訓練を行い、児童を迅速かつ安全に避難させるようにする。
- 訓練を通して、災害に対する意識を高め、予防への心構えと沈着・機敏・協力の心情を育て、常に統制と秩序ある行動ができるようにする。

※ 内容は添付「避難訓練計画」参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

- 防火扉を閉めて訓練を行ったため、普段と違う雰囲気となったため、児童も真剣に訓練にのぞんでいた。
- ご高評で、短い時間ではあったが、防災アドバイザーからの貴重なお話を聞くことができた。

2. 課題

- 季節外れの暖かさだったので、防寒しなくてもグラウンドに避難できたが、来年はもっと早い時期に実施できるとよい。
- グラウンドに出てからは走ってもよい事になっているが、結構な速さで走っている学年があり、来年度は事前指導が必要。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	坂井市立三国西小学校
報告者	森阪貴徳

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

令和5年11月21日（火） 14：40～15：120

教職員12名

2. 実施の目的、内容

- 突然起こる災害に備え、日常の予備訓練を行い、児童を迅速かつ安全に避難させるようにする。
- 訓練を通して、災害に対する意識を高め、予防への心構えと沈着・機敏・協力の心情を育て、常に統制と秩序ある行動ができるようにする。

II 成果と課題

1. 成果

- 防災アドバイザーから訓練時の写真をスライドとして見ることができ、自分たち以外の教員や児童がどのような動きをしていたのか全体像を把握することができた。
- 事前に気になる学校の様子の写真を提示されることで、普段気づかない危険に気づくことができた。今後の防災対策に生かしたい。

2. 課題

- 短い時間での研修となったため、内容が限られていた。1時間程度の研修を計画するとよかった。
- 毎年、教職員のメンバーが変わるため、指導が風化しないよう定期的に研修を行うことが必要だと感じた。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

令和5年度 避難訓練計画

坂井市立三国西小学校

1 ねらい

- (1) 突然起こる災害に備え、日常の予備訓練を行い、**児童を迅速かつ安全に避難**させるようにする。
- (2) 訓練を通して、災害に対する意識を高め、予防への心構えと沈着・機敏・協力の心情を育て、**常に統制と秩序ある行動**ができるようにする。

2 日時 令和5年 11月21日 (火) 5限目 (13:15～14:00)

3 日程 13:15～ 避難訓練① **地震**から身を守る
 避難訓練② **火災**から身を守る
 13:30～ 避難訓練についての講評
 13:45～ **水消火器訓練 (5・6年生)**

4 状況想定

- (1) 地震発生。**机の下**で避難待機。
- (2) その後、理科室より火災発生。全員**理科室側を避け、防火戸をくぐり避難**。

5 指導内容 (事前指導)

- (1) 学校で災害が起きたらどうするかについて関心を高める。
- (2) 災害の恐ろしさや**避難訓練の大切さ**を理解させる。
- (3) 避難訓練の意義が分かり、**真剣に訓練する心構え**を培う。
- (4) **避難の順序や方法**について理解させる。
- (5) 指示に従い、**規律正しい集団行動**をとることが大切であることを理解させる。
- (6) **各クラス任意で怪我人 (赤白帽赤に) を1名程度設定し、介助しながら避難**する。
怪我人については、事前に教頭まで名前を連絡する。(消防署に事前連絡)
- (7) 東側1～3Fと西側1Fの**防火戸を閉め、くぐり戸を通して避難**する。
- (8) **地震で通れない箇所を当日設定 (コーンで封鎖) し、臨機応変に避難**する。
- (9) **放送機器が破損したの時にどう対応するか、臨機応変に指示を出す**。

6 訓練要項 ※今回は教務が授業中なので、**山本教諭が教務の仕事**をする。

活動：めやす時刻	活動内容	備考
○5限目 13:15	5限目、担任 (授業者) は教室にいる。	担任 (授業者) は児童の人数を把握
○準備	東側1～3Fと西側1F 防火戸を閉める 。 通れない 出口をコーンで通行止め にする。 なかよし担任は教室に待機する。	クワン防災に依頼 教務が準備
○地震発生 13:18	緊急地震速報音 (30秒後に地震発生) 担任の指示 「机の下に隠れなさい。」 体育館やグラウンドにいる児童は落下物のない所でかがみ、頭を守る。 地震音 (放送で1分程度)	教頭が事前に設定 教員も隠れる 装置で地震音
○火災報知器反応 13:19	職員室の報知器が反応 し、教務が携帯電話を持って 理科室へ 現場確認に急行する。	なかよし担任は 校内電話51番 を利用
○職員室へ連絡	教務が火事を確認し、なかよし担任に職員室への連絡を依頼する。 教務は、近くの消火器で初期消火にあたる。 この間、児童は机の下に隠れている。	消火器を持って移動 事前に消火器を確認
○火災報知器音 13:20	校内に 火災報知器音 がなる。 教務は初期消火 (30秒程) に失敗したことをなかよし担任に伝え、校内電話で職員室に連絡し	校内電話51番 なかよしの児童はいない想定

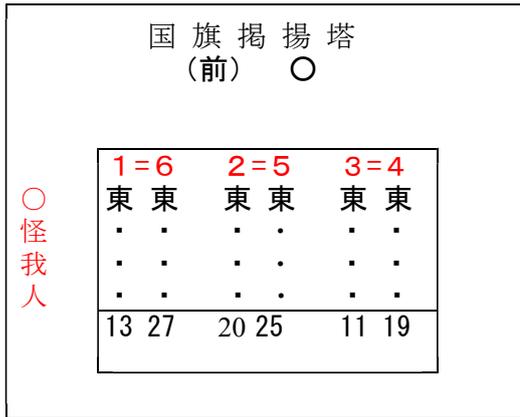
<p>○避難指示 13:21</p> <p>○全員避難 13:22～</p>	<p>てもらう。 教頭は事務職員に消防署へ通報を指示する。 「理科室で出火、初期消火失敗、消防依頼」 なかよし担任は連絡後東側へ避難する途中、東側防火戸のくぐり戸を空け、避難を誘導する。 教務は状況報告のため職員室に戻る。 状況報告後、教頭の指示で東側防火戸のサポートに行き、なかよし担任と交代する。 担任は報知器音が1分なくても放送がないため廊下に出て、職員室の様子を伺う。</p> <p>教頭は放送設備破損を確認後、拡声器で職員室から全校に連絡する。 「訓練、訓練。地震が収まりましたが、理科室で火災が発生しました。児童のみなさんは、先生の言うことを聞き、余震に気をつけて校庭（体育館）に避難しなさい。」 廊下にいる教員は廊下の窓を開け指示を聞く。 教室にいる教員は児童を静かにさせ指示を待つ。</p> <p>担任（授業者）は避難の指示を出す。 「今から校庭（雨：体育館）に避難します。」 「体操帽子（白）を被り、ハンカチで口を覆い、体勢を低くして廊下に並びなさい。」 （落下物、煙から守るため）</p> <p>防火戸が閉まっている箇所は、くぐり戸を教員（教務）が開けて避難する。 コーンがある場所は通れないので、担任は安全なルートをその場で判断して避難する。</p>	<p>同じ階の担任同士連携して対応する 例:教室2名廊下1名 拡声器を準備 各階教員1名は廊下で連絡を聞く 連絡が聞こえない場合は教頭の様子を見て廊下の教員が避難を判断する</p> <p>各学級2列・点呼 怪我人を確認し、介助を指示する 怪我人のペースで移動</p> <p>担任（教務）は防火戸で児童を誘導 教務と■■■■は役割を交代する</p>
<p>“おさない・しゃべらない・もどらない”を守る。 校舎外に出たら、少し走って集合場所へ早く集まる。</p>		
<p>○人数確認 13:27～</p> <p>○状況報告 13:28～</p>	<p>クラス別に避難時の隊形に整列し、人数を確認する。（掲揚塔前、雨天時：体育館）</p> <p>教頭にクラス児童の状況を報告する。 「〇年東組 在籍〇名 欠席〇名 出席〇名 全員避難しました。 〇〇さんが、〇〇を怪我しています。」 担任は報告後、怪我人を養護教諭に見てもらう。</p> <p>教務は教頭に職員の数・状況を報告する。 教頭は校長に全校児童と職員の状況を報告する。</p>	<p>なかよしの担任は全員確認できたら、改めて報告する</p> <p>養護教諭は必要なら応急手当をする 怪我人が多い場合は応援を頼む</p>
<p>○講評 13:30～</p>	<p>講評 ①消防署 ②防災アドバイザー ③校長 ※ 雨天時は、体育館で講評</p>	<p>教頭司会進行</p>
<p>○移動 13:45～</p>	<p>1～4年は、担任を先頭にズックの汚れをとって、各教室に戻る。</p>	<p>清掃担当はマット （整備倉庫）を用意</p>
<p>○消火訓練</p>	<p>5～6年生は玄関に移動し、水消火器を使った消火訓練を行う。</p>	<p>消防署員の指導 教職員も行う</p>
<p>○振り返り記入</p>	<p>そろったクラスから振り返りを記入する。</p>	<p>振り返り用紙を準備</p>

7 係分担（災害発生時）※ 赤字は今回の役割

係	担当者
通報連絡係	教頭・()
避難誘導係	各担任(授業者)・防火戸： → →
救助係	校長・教頭・
初期消火係	
搬出係	
災害情報収集係	※搬出係は、災害情報係を兼務する。
応急救護係	

8 集合場所

(1) 校庭への避難（雨天時は体育館へ）



〈別場所へ避難の方法〉

- ※なかよしは親学級の後ろに並ぶ。
- ※避難したら、場所の様子を見て静かに座らせる。
- ※怪我人は校舎側に並ばせる。

9 事前準備や指導

<担任の指導>

- 学級の児童に避難訓練について事前指導をしておく。
- 各クラスで怪我人や怪我の箇所、介助人を決めておき、事前に教頭に連絡する。
※怪我人はクラスの実態に応じて、設定する。(0名でも可)
- 朝の健康観察で児童の状況を把握しておく。
- 教室に入ったら、児童に訓練のふり返りをさせる。

<防災担当(教頭)>

- 職員の出勤状況や災害発生時の動向をあらかじめ把握しておく。
- 三国消防署(82-6119)に事前に訓練通知書2部と実施要項1部を提出し、訓練について打ち合わせしておく。
打合せ後、校舎平面図と怪我人の人数(怪我の状況)をメールにて連絡する。
- 緊急地震速報装置を事前にセットしておく。
- 非常ベルの作動させ方を確認しておく。
- クラウン防災66-5200に連絡し、事前に火災報知器の作動や防火戸について依頼しておく。